

梁山・東萊・統營の三郡、黃海道に於ては、海州・延白・信川・載寧・黃州・鳳山・遂安の七郡、平安南道に於ては、寧遠郡、平安北道に於ては、朔州・昌城・碧潼・楚山・渭原・江界・慈城・厚昌の八郡、江原道に於ては、麟蹄・淮陽・江陵・平昌・橫城・金化・鐵原・平康・伊川の九郡、咸鏡南道に於ては、咸州・文川・徳原・利原・新興・長津・三水・甲山の八郡、咸鏡北道に於ては、鏡城・富寧・茂山・會寧・鐘城・穩城・慶源・慶興の八郡にして、合計僅に六十八郡に過ぎず、其他の諸郡はいづれも移住減少を來して居る。

府部人口移動調

府名	大正十四年末人口		昭和五年末人口		五箇年間増加總數	自然増加			移住増加
	人口	増加總數	人口	増加總數		出生數	死亡數	自然増加	
京城府	3,271,111	3,271,111	3,554,424	283,313	283,313	66,633	45,666	21,967	40,132
仁川府	555,593	555,593	636,696	81,103	81,103	7,809	8,119	310	10,772
開城府(穩都面)	126,666	126,666	148,555	21,889	21,889	4,666	4,766	100	19
群山府	211,037	211,037	255,611	44,574	44,574	3,555	1,668	1,887	3,907
木浦府	255,732	255,732	311,877	56,145	56,145	3,101	2,220	881	3,982
大邱府	271,177	271,177	310,076	38,899	38,899	1,171	6,722	5,551	33,348
釜山府	635,334	635,334	735,377	100,043	100,043	17,433	10,977	6,456	93,587
馬山府	171,488	171,488	255,810	84,322	84,322	3,553	2,110	1,443	7,620
平壤府	195,665	195,665	255,977	60,312	60,312	1,719	1,666	53	3,169
鎮南浦府	27,661	27,661	33,601	5,940	5,940	3,333	2,101	1,232	9,108
新義州府	231,177	231,177	243,366	12,189	12,189	2,966	2,233	733	30,968

郡名	大正十四年末人口		昭和五年末人口		五箇年間増加總數	自然増加			移住増加
	人口	増加總數	人口	増加總數		出生數	死亡數	自然増加	
元山府	335,588	335,588	350,020	14,432	14,432	3,833	6,666	8,677	
咸興府(咸興面)	315,404	315,404	317,177	1,773	1,773	3,333	1,560	7,333	
清津府	210,563	210,563	235,777	25,214	25,214	3,066	3,333	11,011	
計	8,851,077	8,851,077	11,116,210	2,265,133	2,265,133	126,199	108,333	3,777,800	

京畿道郡部人口移動調

郡名	大正十四年末人口		昭和五年末人口		五箇年間増加總數	自然増加			移住増加
	人口	増加總數	人口	増加總數		出生數	死亡數	自然増加	
高陽郡	155,108	155,108	168,108	12,999	12,999	17,677	4,678	3,992	
廣州郡	83,455	83,455	90,777	7,322	7,322	9,977	2,655	6,992	
楊州郡	106,235	106,235	100,655	-5,580	-5,580	18,977	13,400	5,577	
漣川郡	75,666	75,666	77,666	2,000	2,000	10,977	9,977	6,992	
抱川郡	65,666	65,666	60,000	-5,666	-5,666	11,333	8,888	2,445	
加平郡	33,566	33,566	35,566	2,000	2,000	11,333	9,333	2,000	
楊平郡	77,066	77,066	70,066	-7,000	-7,000	11,333	10,700	6,633	
驪州郡	61,333	61,333	61,000	-333	-333	11,333	10,700	6,633	
利川郡	77,777	77,777	81,888	4,111	4,111	11,333	7,222	4,111	
龍仁郡	77,777	77,777	81,888	4,111	4,111	11,333	7,222	4,111	
安城郡	77,777	77,777	81,888	4,111	4,111	11,333	7,222	4,111	
安城郡	77,777	77,777	81,888	4,111	4,111	11,333	7,222	4,111	
水原郡	147,297	147,297	151,690	4,393	4,393	27,733	15,766	11,967	

全 羅 北 道

郡 名	大正十四年		昭和五年		五年間增加總數	自然增加			移住增加
	人口	末	人口	末		出生數	死亡數	自然增加	
公州郡	126,183	129,566	119,500	121,000	13,066	18,096	5,036	7,960	
燕岐郡	57,109	53,045	52,000	51,000	1,045	10,665	9,620	1,045	
大田郡	93,760	110,135	117,000	117,000	16,375	17,250	875	7,925	
論山郡	118,721	129,896	117,000	117,000	12,896	10,100	2,796	2,800	
扶餘郡	96,897	110,000	117,000	117,000	13,103	10,100	3,003	2,800	
舒寧郡	81,848	89,456	89,456	89,456	7,608	10,100	2,492	2,800	
保寧郡	73,699	78,851	78,851	78,851	5,152	6,000	848	5,152	
青陽郡	63,177	67,300	67,300	67,300	4,123	5,100	977	4,123	
洪城郡	81,131	86,677	86,677	86,677	5,546	6,000	454	5,546	
禮山郡	89,040	99,402	99,402	99,402	10,362	10,100	262	10,362	
瑞山郡	135,535	155,101	155,101	155,101	19,566	18,000	1,566	19,566	
唐山郡	75,145	82,806	82,806	82,806	7,661	8,000	339	7,661	
天津郡	66,037	81,406	81,406	81,406	15,369	12,000	3,369	15,369	
山安郡	66,555	81,406	81,406	81,406	14,851	12,000	2,851	14,851	
牙山郡	86,555	90,000	90,000	90,000	3,445	4,000	555	3,445	
天安市	1,135,185	1,353,000	1,353,000	1,353,000	217,815	115,000	102,815	217,815	
計	1,135,185	1,353,000	1,353,000	1,353,000	217,815	115,000	102,815	217,815	

忠 清 北 道

郡 名	大正十四年		昭和五年		五年間增加總數	自然增加			移住增加
	人口	末	人口	末		出生數	死亡數	自然增加	
清州郡	126,063	127,400	127,400	127,400	1,337	27,276	25,939	1,337	
報恩郡	66,953	73,460	73,460	73,460	6,507	13,866	7,359	6,507	
沃川郡	70,991	76,033	76,033	76,033	5,042	12,407	7,365	5,042	
永同郡	82,483	85,800	85,800	85,800	3,317	14,000	10,683	3,317	
鎮川郡	46,763	46,122	46,122	46,122	-641	8,900	9,541	-641	
槐山郡	101,276	109,753	109,753	109,753	8,477	18,367	9,890	8,477	
陰城郡	67,800	73,555	73,555	73,555	5,755	13,100	7,345	5,755	
忠清郡	104,800	109,636	109,636	109,636	4,836	19,933	15,097	4,836	
堤川郡	79,266	80,006	80,006	80,006	740	13,171	12,431	740	
計	1,566,331	1,633,300	1,633,300	1,633,300	67,669	269,933	202,264	67,669	

×開豐郡の數字には舊開城郡に屬する松都面即ち開城府の人口を含む

都 邑	大正十四年	昭和五年	五年間增加總數	自然增加	移住增加
潭陽郡	12,955	16,717	3,762	1,111	2,651
谷城郡	17,717	21,111	3,394	717	2,677
求禮郡	10,000	13,333	3,333	1,000	2,333
光陽郡	15,151	18,484	3,333	1,151	2,182
麗天郡	11,111	14,444	3,333	1,111	2,222
順興郡	12,121	15,454	3,333	1,211	2,122
高城郡	13,131	16,464	3,333	1,311	2,022
寶興郡	14,141	17,474	3,333	1,411	1,922
和順郡	15,151	18,484	3,333	1,511	1,822
長興郡	16,161	19,494	3,333	1,611	1,722
康津郡	17,171	20,504	3,333	1,711	1,622
海安郡	18,181	21,514	3,333	1,811	1,522
靈巖郡	19,191	22,524	3,333	1,911	1,422
務安郡	20,201	23,534	3,333	2,011	1,322
羅州郡	21,211	24,544	3,333	2,111	1,222
咸平郡	22,221	25,554	3,333	2,211	1,122
靈城郡	23,231	26,564	3,333	2,311	1,022
長城郡	24,241	27,574	3,333	2,411	922
莞島郡	25,251	28,584	3,333	2,511	822
珍島郡	26,261	29,594	3,333	2,611	722
濟州府	27,271	30,604	3,333	2,711	622

全 羅 南 道	大正十四年	昭和五年	五年間增加總數	自然增加	移住增加
全州郡	120,833	128,676	7,843	7,843	0
安山郡	65,919	68,829	2,910	2,910	0
山安郡	66,368	71,439	5,071	5,071	0
朱山郡	50,368	50,737	369	369	0
水原郡	50,446	50,660	214	214	0
任實郡	75,916	76,956	1,040	1,040	0
南原郡	107,717	110,453	2,736	2,736	0
淳昌郡	70,000	70,333	333	333	0
井邑郡	140,716	140,932	216	216	0
高敞郡	109,402	109,877	475	475	0
扶安郡	76,479	82,333	5,854	5,854	0
金堤郡	110,011	110,111	100	100	0
沃川郡	100,000	101,717	1,717	1,717	0
沃山郡	139,636	140,636	1,000	1,000	0
益山郡	139,636	140,636	1,000	1,000	0
全州	1,377,377	1,411,111	33,734	33,734	0

郡名	大正十四年末人口	昭和五年末人口	五年間增加總數	自然增加			移住增加
				出生數	死亡數	自然增加	
晉州郡	二四,四九七	二四,七四七	二五	二,三三三	一,四四四	一,〇七九	一〇,一五九
宜寧郡	七,七四六	七,九〇〇	一五四	一,〇七九	七,六三三	六,五五四	三,三三九
咸安郡	九,〇八六	九,〇〇〇	八六	一,〇七九	九,一〇八	八,〇二九	三,三三九
昌寧郡	九,三三三	九,四四四	一一一	一,〇七九	九,三六三	八,二八四	三,三三九
密陽郡	二四,三三三	二六,九三三	二,六〇〇	一,〇七九	一,〇七九	〇	二,五二一
梁山郡	三九,〇〇〇	四〇,三三三	一,三三三	一,〇七九	一,〇七九	〇	二,五二一
蔚山郡	二二,三三三	二二,九三三	六〇〇	一,〇七九	一,〇七九	〇	六,八八四
東萊郡	八,九三三	九,〇〇〇	六六	一,〇七九	九,〇〇〇	八,九三三	六,八八四
金海郡	一〇,八六一	一〇,七七一	一〇	一,〇七九	一〇,八〇九	一〇,七七一	四,六六六
昌原郡	二七,八三六	二八,一〇〇	二六四	一,〇七九	二七,八三六	二七,八三六	四,六六六
統營郡	一四,三三七	一四,六三三	二九六	一,〇七九	一四,三三七	一四,三三七	三,九〇〇
固城郡	二二,三三三	二二,三三三	〇	一,〇七九	二二,三三三	二二,三三三	一,〇〇〇
泗川郡	七,八三三	七,八三三	〇	一,〇七九	七,八三三	七,八三三	三,二二二

郡名	大正十四年末人口	昭和五年末人口	五年間增加總數	自然增加			移住增加
				出生數	死亡數	自然增加	
醴泉郡	九,五三三	九,五三三	〇	一,〇七九	九,五三三	八,四五四	三,二二二
榮州郡	七,八三三	七,八三三	〇	一,〇七九	七,八三三	七,八三三	二,五二一
奉化郡	九,七一一	九,七一一	〇	一,〇七九	九,七一一	八,六三二	二,五二一
鬱計島	二,三三三	二,三三三	〇	一,〇七九	二,三三三	二,三三三	一,〇〇〇

慶尙南道

慶尙北道

郡名	大正十四年末人口	昭和五年末人口	五年間增加總數	自然增加			移住增加
				出生數	死亡數	自然增加	
達城郡	一三,七三三	一三,七三三	〇	一,〇七九	一三,七三三	一二,六五四	五,〇〇〇
軍威郡	八,四三〇	八,四三〇	〇	一,〇七九	八,四三〇	七,三五〇	九,五三七
義城郡	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇	〇	一,〇七九	一三,〇〇〇	一二,九〇〇	五,〇〇〇
安東郡	一四,九〇〇	一四,九〇〇	〇	一,〇七九	一四,九〇〇	一四,八〇〇	九,二六六
青松郡	七,八三三	七,八三三	〇	一,〇七九	七,八三三	七,七三三	九,五三七
英陽郡	四,三三三	四,三三三	〇	一,〇七九	四,三三三	四,二三三	九,五三七
盈日郡	七,九三三	七,九三三	〇	一,〇七九	七,九三三	七,八三三	九,五三七
迎日郡	一六,三三三	一六,三三三	〇	一,〇七九	一六,三三三	一六,二三三	五,〇〇〇
慶川郡	一〇,七三三	一〇,七三三	〇	一,〇七九	一〇,七三三	一〇,六三三	四,三三三
永川郡	一六,七三三	一六,七三三	〇	一,〇七九	一六,七三三	一六,六三三	四,三三三
慶山郡	一六,七三三	一六,七三三	〇	一,〇七九	一六,七三三	一六,六三三	四,三三三
高靈郡	八,六三三	八,六三三	〇	一,〇七九	八,六三三	八,五三三	三,二二二
清道郡	一五,五三三	一五,五三三	〇	一,〇七九	一五,五三三	一五,四三三	三,二二二
漆谷郡	一三,三三三	一三,三三三	〇	一,〇七九	一三,三三三	一三,二三三	三,二二二
金山郡	七,八三三	七,八三三	〇	一,〇七九	七,八三三	七,七三三	三,二二二
善山郡	一六,六三三	一六,六三三	〇	一,〇七九	一六,六三三	一六,五三三	三,二二二
尙州郡	一六,六三三	一六,六三三	〇	一,〇七九	一六,六三三	一六,五三三	三,二二二
開慶郡	一六,六三三	一六,六三三	〇	一,〇七九	一六,六三三	一六,五三三	三,二二二

郡名	大正十四年		昭和五年		五年間增加總數	自然增加			移住增加
	人口	末	人口	末		出生數	死亡數	自然增加	
大 同 郡	1,623,366	1,513,392	1,513,392	1,513,392	1,340,777	3,376	1,970,767	1,340,777	2,264,777
順 川 郡	427,511	427,511	427,511	427,511	3,016	1,146	2,870	3,016	2,870
孟 山 郡	427,511	427,511	427,511	427,511	3,016	1,146	2,870	3,016	2,870
陽 德 郡	427,511	427,511	427,511	427,511	3,016	1,146	2,870	3,016	2,870
成 川 郡	427,511	427,511	427,511	427,511	3,016	1,146	2,870	3,016	2,870
江 東 郡	427,511	427,511	427,511	427,511	3,016	1,146	2,870	3,016	2,870
中 和 郡	427,511	427,511	427,511	427,511	3,016	1,146	2,870	3,016	2,870
龍 岡 郡	427,511	427,511	427,511	427,511	3,016	1,146	2,870	3,016	2,870
江 西 郡	427,511	427,511	427,511	427,511	3,016	1,146	2,870	3,016	2,870
平 原 郡	427,511	427,511	427,511	427,511	3,016	1,146	2,870	3,016	2,870
安 州 郡	427,511	427,511	427,511	427,511	3,016	1,146	2,870	3,016	2,870

郡名	大正十四年	昭和五年	五年間增加總數	自然增加	移住增加
載 寧 郡	66,000	66,000	66,000	1,011	1,011
黃 州 郡	97,891	101,533	3,642	1,011	1,011
鳳 山 郡	97,891	101,533	3,642	1,011	1,011
瑞 興 郡	67,320	67,320	67,320	1,011	1,011
安 山 郡	59,939	59,939	59,939	1,011	1,011
遂 安 郡	1,215,632	1,215,632	1,215,632	1,011	1,011
谷 計 郡	1,215,632	1,215,632	1,215,632	1,011	1,011

郡名	大正十四年		昭和五年		五年間增加總數	自然增加			移住增加
	人口	末	人口	末		出生數	死亡數	自然增加	
海 州 郡	1,623,366	1,513,392	1,513,392	1,513,392	1,340,777	3,376	1,970,767	1,340,777	2,264,777
延 白 郡	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	3,376	1,970,767	1,340,777	2,264,777
金 川 郡	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	3,376	1,970,767	1,340,777	2,264,777
平 山 郡	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	3,376	1,970,767	1,340,777	2,264,777
新 津 郡	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	3,376	1,970,767	1,340,777	2,264,777
長 湍 郡	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	3,376	1,970,767	1,340,777	2,264,777
松 淵 郡	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	3,376	1,970,767	1,340,777	2,264,777
股 栗 郡	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	3,376	1,970,767	1,340,777	2,264,777
安 岳 郡	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	3,376	1,970,767	1,340,777	2,264,777
信 川 郡	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	1,340,777	3,376	1,970,767	1,340,777	2,264,777

郡名	大正十四年末人口		昭和五年末人口		五年間増加總數	自然増加			移住増加
	出生數	死亡數	出生數	死亡數		自然増加	移住増加		
春川郡	七六、六三三	一、六八二	八〇、三三三	一、六八二	一、六八二	一、六八二	〇	三、八五〇	
麟蹄郡	六三、四四九	六、六八一	六〇、〇〇〇	六、六八一	六、六八一	六、六八一	〇	一、七三三	
楊口郡	四八、七五四	六、八四〇	四八、八四〇	六、八四〇	六、八四〇	六、八四〇	〇	四、三三三	
淮陽郡	四八、七五四	七、七八六	四七、八五八	七、七八六	七、七八六	七、七八六	〇	四、三三三	
通川郡	四四、七五五	二、四七七	四四、七五五	二、四七七	二、四七七	二、四七七	〇	一、六八〇	
高陽郡	四〇、四七七	五、八七五	四〇、四七七	五、八七五	五、八七五	五、八七五	〇	一、七三三	
襄陽郡	三六、四四八	五、八三七	三六、四四八	五、八三七	五、八三七	五、八三七	〇	四、〇〇〇	
江陵郡	七、三三八	八、八三五	八、八三五	八、八三五	八、八三五	八、八三五	〇	七、四〇〇	
三陟郡	七、三三八	五、二五六	八、八三五	五、二五六	五、二五六	五、二五六	〇	三、九三三	
蔚珍郡	六、三三五	三、三九二	六、三三五	三、三九二	三、三九二	三、三九二	〇	一、四三三	

江 原 道

×昭和五年義州郡人口は行政區劃の變更に依り、その一部が新義州府に編入されたる結果、自然移住減少を大ならしめて居る。

郡名	大正十四年末人口		昭和五年末人口		五年間増加總數	自然増加			移住増加
	出生數	死亡數	出生數	死亡數		自然増加	移住増加		
碧潼郡	四三、二六三	一、〇六五	四八、七七一	一、〇六五	一、〇六五	一、〇六五	〇	二、四四四	
楚山郡	三三、四四四	一、五五一	三三、四四四	一、五五一	一、五五一	一、五五一	〇	三、九六二	
渭原郡	三九、三六七	八、〇七九	三九、三六七	八、〇七九	八、〇七九	八、〇七九	〇	一、六六七	
江界郡	二五、一三三	二、四六五	二五、一三三	二、四六五	二、四六五	二、四六五	〇	三、五二〇	
慈城郡	四三、九四〇	九、三三三	四三、九四〇	九、三三三	九、三三三	九、三三三	〇	八、八三四	
慈昌郡	三、七五五	五、二二二	三、七五五	五、二二二	五、二二二	五、二二二	〇	六、三六八	
厚昌計	一、三三〇、一〇一	三三、〇六〇	一、四三三、〇四一	三三、〇六〇	三三、〇六〇	三三、〇六〇	〇	五、四六三	

平 安 北 道

×昭和五年末大同郡人口は行政區劃の變更に依り、その一部が平壤府に編入されたる結果、自然移住減少を大ならしめて居る。

郡名	大正十四年末人口		昭和五年末人口		五年間増加總數	自然増加			移住増加
	出生數	死亡數	出生數	死亡數		自然増加	移住増加		
義州郡	一五、一〇〇	二、〇六六	一五、一〇〇	二、〇六六	二、〇六六	二、〇六六	〇	一、六八六	
龜城郡	六三、六四四	一、七〇〇	六三、六四四	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	〇	四、一五三	
泰川郡	三三、一六九	一、三〇〇	三三、一六九	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	〇	四、三三九	
雲山郡	四四、九六六	一、三九九	四四、九六六	一、三九九	一、三九九	一、三九九	〇	四、三三九	
熙川郡	六、一五五	二、七三七	六、一五五	二、七三七	二、七三七	二、七三七	〇	二、九四四	
寧邊郡	三三、一六九	一、三〇〇	三三、一六九	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	〇	一、五七三	
博川郡	七、七二二	八、六三六	七、七二二	八、六三六	八、六三六	八、六三六	〇	七、三一一	
定州郡	二四、〇〇〇	一、三三三	二四、〇〇〇	一、三三三	一、三三三	一、三三三	〇	七、四七九	
宜川郡	七、九一一	四、五三四	七、九一一	四、五三四	四、五三四	四、五三四	〇	五、三〇〇	
鐵山郡	六、六六〇	七、七	六、六六〇	七、七	七、七	七、七	〇	八、六七七	
龍川郡	一〇〇、〇〇〇	八、八八〇	一〇〇、〇〇〇	八、八八〇	八、八八〇	八、八八〇	〇	五、三三九	
朔州郡	二〇、〇〇〇	六、六六〇	二〇、〇〇〇	六、六六〇	六、六六〇	六、六六〇	〇	一、六六七	
昌城郡	四、四四四	五、五五五	四、四四四	五、五五五	五、五五五	五、五五五	〇	二、〇〇〇	

郡名	大正十四年末人口		昭和五年末人口		五年間増加總數	自然増加			移住増加
	出生數	死亡數	出生數	死亡數		自然増加	移住増加		
价川郡	五、三三七	六、九三三	五、三三七	六、九三三	六、九三三	六、九三三	〇	五、二二六	
徳川郡	四、九一〇	九、二一六	四、九一〇	九、二一六	九、二一六	九、二一六	〇	五、八六八	
寧遠郡	四、九一〇	六、九三三	四、九一〇	六、九三三	六、九三三	六、九三三	〇	一、七三六	
計	一、二〇一、八三三	一三、六六九	一、二三三、八三三	一三、六六九	一三、六六九	一三、六六九	〇	八、八、五四七	

郡名	大正十四年末人口	昭和五年末人口	五年間増加總數	自生數	死亡數	自然増加	移住増加
旌善郡	五,101	五,035	二,733	九,七六八	六,八八四	二,八八四	△
平昌郡	五,七六六	七,九六九	五,003	一〇,七五五	七,五九九	三,一五六	△
寧越郡	六,二八三	六,五三六	二,五七二	一〇,一五二	七,三三三	三,一三六	△
原州郡	六,六五七	六,九四二	一〇,一〇六	八,九八四	八,九八四	三,三三一	△
横城郡	六,三三六	六,七四六	四,三八八	一〇,一三六	七,九四三	三,三九八	△
洪川郡	七,五三三	六,九七三	四,四九七	一〇,一七二	八,三三三	三,八三九	△
華川郡	三,四三三	三,五三三	四,四九七	六,七七一	四,三三三	二,四四四	△
金化郡	八〇,七九七	八七,四二一	六,六二四	一七,九六七	一三,九三三	三,六三三	△
鐵原郡	六六,四九九	六七,九三二	八,六七三	一四,一三三	一〇,一七六	三,九五七	△
平康郡	五〇,六六六	六〇,八七七	一〇,一一一	一〇,九七七	六,七三三	四,二四四	△
伊川郡	六五,四七一	七三,三〇八	一〇,一三三	一三,一五六	八,九三三	四,二二二	△
計	一,〇一九,九七〇	一,一四一,一七〇	一〇一,三〇〇	二二〇,二七六	一四四,一三三	一〇〇,〇五五	一,一六九

咸鏡南道

郡名	大正十四年末人口	昭和五年末人口	五年間増加總數	自生數	死亡數	自然増加	移住増加
咸州郡	一三三,〇三三	一四〇,七六一	三三,七二八	一三〇,七三三	一〇,五三三	一三〇,二〇〇	△
定平郡	七九,五五六	七九,四六〇	五	一八,九六五	九,八二一	九,一四四	△
永興郡	二五,三三六	二三,七三三	一,六〇三	二七,六〇〇	一四,九三三	一二,六六七	△
高原郡	四〇,八三四	四四,六六六	三,八三二	一〇,一〇〇	五,六六六	四,四三三	△
高川郡	三三,七三三	四〇,六三三	六,九〇〇	七,四九九	四,二六六	三,二三三	△
文川郡	五二,二七六	五七,七六六	六,四九〇	一〇,六〇〇	六,四〇〇	四,二〇〇	△
德源郡	三三,七三三	三三,七三三	〇	七,四九九	四,二六六	三,二三三	△
計	三三三,〇三三	三三三,〇三三	六,四九〇	二〇,六〇〇	一四,四〇〇	一六,二〇〇	二,二〇〇

×咸州郡の數字には舊咸興郡に屬する咸興面即ち今の咸興府の人口を含む。

咸鏡北道

郡名	大正十四年末人口	昭和五年末人口	五年間増加總數	自生數	死亡數	自然増加	移住増加
安邊郡	六五,三三六	六八,五七九	三,二四三	一四,九四七	八,七三六	六,二一一	△
洪原郡	八五,八七〇	八八,九六六	三,〇九六	一四,九四七	一〇,三三六	四,六一一	△
北青郡	一六,七一〇	一七,一七〇	四,四六〇	一四,九四七	三,五五六	一四,八五六	△
利川郡	四三,三三六	四三,三三六	〇	一四,九四七	一〇,三三六	四,六一一	△
端川郡	一三,八三四	一三,八三四	〇	一四,九四七	一〇,三三六	四,六一一	△
新興郡	七,七三三	六,九七三	八,一六〇	一四,九四七	一〇,三三六	四,六一一	△
長津郡	四,一七六	三,七七一	四,五五五	一四,九四七	一〇,三三六	四,六一一	△
豊山郡	三,七三三	三,七三三	〇	一四,九四七	一〇,三三六	四,六一一	△
三水郡	三,七三三	三,七三三	〇	一四,九四七	一〇,三三六	四,六一一	△
甲山郡	一,三三三	一,三三三	〇	一四,九四七	一〇,三三六	四,六一一	△
計	一,三三三,〇三三	一,三三三,〇三三	二六,九四六	二九,五二〇	一六,二四七	一三,二七三	七,二四七

第十章 都邑

郡名	大正十四年末人口	昭和五年末人口	五年間増加總數	自生數	死亡數	自然増加	移住増加
鏡城郡	一〇〇,〇〇〇	一一七,四七三	一七,四七三	三三,三四三	三,四六七	九,八八六	七,五五七
明川郡	一〇,〇〇〇	一一三,三三三	七,九三三	三,九三三	二,七三三	一,二〇〇	△
吉州郡	七九,三三三	七六,四六六	△	一〇,〇〇〇	八,九三三	一,〇六六	△
城津郡	七九,三三三	八三,三三三	四,〇〇〇	一〇,〇〇〇	八,九三三	一,〇六六	△
富寧郡	三三,三三三	三三,三三三	〇	一〇,〇〇〇	八,九三三	一,〇六六	△
茂山郡	三三,三三三	三三,三三三	〇	一〇,〇〇〇	八,九三三	一,〇六六	△
計	三三三,〇三三	三三三,〇三三	二六,九四六	二九,五二〇	一六,二四七	一三,二七三	七,二四七

朝鮮の聚落 (前篇)

會寧郡	三、一〇三	四、〇六六	九、九三三	八、九三六	五、二四〇	三、七三三	六、二二一
鍾城郡	二、八八一	三、四六六	三、九一五	八、〇三三	四、七五三	三、六〇〇	六、三五
穩城郡	一九、〇九七	二六、九七七	七、八六〇	五、五九四	三、五六四	二、〇〇〇	五、八三〇
慶源郡	二六、三三三	三〇、五七七	四、三三五	七、六四〇	四、八六一	二、七九九	一、四六六
慶興郡	三、六六九	五、三六九	一九、六三〇	一〇、三三七	五、八七五	四、五三三	一、五、二八六
計	五九、七二七	六八、一九一	九、四四〇	一三五、三三三	七五、三六九	五九、九三三	三〇、五二一

聚落盛衰の理由

以上の表を通じ、府部は別として、郡部に於ては移住増加よりも移住減少の方が遙かに多いが、特に移住増加多き諸郡と、特に移住減少大なる諸郡を見るに、前者に於ては左記四十九郡を算し、後者に於ては左記六十郡を數ふるのである。而してこれ等の諸郡に就いて冷靜に觀察するときは、自ら移住増加の原因を探索するこ

最近五年間移住増加多き諸郡

高陽	二二、九四六	沃溝	九、二六四	統營	三、九九〇	昌城	二、〇五六
大田	七、九九一	釜山	四、二六五	海州	七、五一七	碧潼	二、四四四
禮山	二、三二五	光州	一、七三五	延白	六、〇七三	楚山	二、九八二
唐津	一、五〇六	麗水	四、一四三	戴寧	一、二二四	渭原	一、六八七
全州	一四、一五二	莞島	二、一一〇	鳳山	一、一一七	江界	三、五一〇
井邑	三、七二三	珍島	一、二五七	寧遠	一、七五六	慈城	八、八二四
金堤	七、九二六	萊島	四、六九四	朔州	一、六六七	厚昌	六、三三八

麟蹄	一、一七三	咸州	一三、四五七	三水	三、六三五	穩城	五、八三〇
高城	一、七七三	文川	三、七六〇	甲山	一三、七三九	慶源	一、四九六
平昌	一、九七七	德源	二、二八七	鐘城	七、五七三	慶興	一、五、二六八
鐵原	四、七一二	利原	一、二六四	富寧	二、四五五		
平康	五、九四七	新興	一七、四二一	茂山	七、〇五八		
伊川	三、二七一	長津	一、五一四	會寧	六、二一一		

最近五箇年間移住減少大なる諸郡

廣州	六、九九八	靈巖	五、六七三	尙州	七、七三四	安州	九、三八三
漣川	六、九七四	濟州	二二、六二七	醴泉	五、二五四	价川	五、二一六
抱川	七、八四四	遠城	五、四一〇	晉州	一〇、五一五	徳川	五、八七八
楊平	六、八九一	軍威	五、〇五六	蔚山	六、八五四	義州	一六、八二八
龍仁	八、一一三	義城	九、五二七	河東	五、九六〇	泰川	六、三一九
安城	五、一二五	安東	九、一六九	陝川	九、八一五	寧邊	一五、七二二
水原	六、五八〇	迎日	一二、二四二	海州	七、五一七	博川	七、七四九
江華	五、四七九	慶州	一〇、〇六九	平山	七、三二八	定州	七、三一
公州	五、〇二五	永川	七、四六三	瑞興	五、五九四	宣川	五、二〇三
順天	五、八二六	慶山	八、二五七	大同	二六、四一七	鐵山	八、六二七
和順	九、二一〇	清道	八、一一二	中和	八、〇三四	龍川	五、二二九
長興	五、九九〇	高靈	七、一九七	龍岡	六、七四六	定平	九、二四〇
海南	六、三九二	漆谷	七、五四一	江西	八、〇七一	永興	五、二〇四
海州	六、四七五	金泉	六、四二六	平原	八、八四九	洪原	五、八一八

北 青

九、六五六

端 川

二二、三七〇

豊 山

六、三一六

吉 州

七、九四八

大體に於て移住増加の多い郡は、水利灌漑の便良き土地肥沃な農業移民を收容するに足る平野地帯、鐵道の延長した小市街發達の著しき方面、從來人口密度の稀薄な地方に多いやうである。今少しく個々の郡に就いて見るに、高陽郡は京城市街の接續地の發展に依り、新興郡は水力電氣事業の勃興の結果、慶興郡は鐵道の延長の影響を受け、全州郡は鐵道の延長、農業の開發、市街の發達の爲め、甲山郡は森林鐵道の敷設、林業の開發に基き、咸州郡は咸興及びその附近の工業發展に依り、光州郡は鐵道の延長、産業の開發の爲め、沃溝郡は農業移民の増加に基き、大田・金堤・海州・延白・平康の諸郡は區域内の小市街の發達、水利灌漑の便拓け、開墾事業の普及した結果、慈城・鐘城・茂山・厚昌・會寧・穩城の諸郡は奥地の開拓、鐵道の延長等の結果、俄かに人口の移住増加を多からしめたものであるが、其他の諸郡に於ても、右に述べたやうな各種の原因が働いて移住増加を來して居るのである。

翻つて移住減少の大なる郡を見るに、旱害の影響を蒙ること大なる地方、及び純農村部落を多數に包含する地方に、その傾向が濃厚なやうである。大同郡は行政區劃の變更の結果、移住減少の如く見ゆるが、實際に於ては移住増加を來して居るから例外とし、清州島は内地出稼の最も盛んなる地であり、端川・義州・寧邊・迎日・晋州・慶州・陝川・北青・義城・安東・定平・順天・平原・鐵山・慶山・龍仁・清道・江西及び其他の諸郡も移住減少の大なる方に屬し、これ等の諸郡中には旱害の影響を蒙ること多き地方も尠らず、また、晋州郡

は釜山に、義州郡は郡の一部が行政區劃の變更により、新義州府に編入された結果もあるが、新義州に道廳の移轉し、これに伴ひて行政機關・經濟機關の失はれたるが爲めに市街の衰微し、それに影響されて居る點もある。概して特に水害灌漑の便良く、開墾干拓の行はれた地方とか、又は鐵道の開通に依り小市街の發達した地域とか、或は水力電氣事業又は工業の勃興した方面とか、若くは從來人口密度の稀薄であつた奥地が俄かに開發されたといふやうな例を除いては、多くの郡部は農村の疲弊、生活の困難に伴ひ、人口の都市集中と、鮮外移住を大ならしめて居るのである。これを要するに、鮮内人口の移住減少は、大勢上容易に阻止し難き實情に在る。經濟力より見て、既に南鮮地方の如きは人口の飽和状態に達して居るのであるから、移住減少必ずしも憂ふべきでないが、これを餘儀なくされた鮮内の經濟状態の改善は刻下の急務に屬する。勿論當局の施設經營に依り多少この形勢を緩和することは不可能にあらず、即ち窮民救濟事業の實行、小農の保護救濟、北鮮の開拓、自作農の創定等々、既に實施し又は將來實施されんとする諸種の企畫に依り、國民生活の安定を計る如きことは極めて大切なことである。

第五節 都邑附近の聚落

市街地附近の發達

朝鮮の都邑は概して小規模であり、生産力も消費力も微弱であるから、その戸口増加力も内地の諸都市に比

すると遙かに劣つて居るが、都邑の發達膨脹に伴ひ、その附近の聚落も自然戸口の増大を來し、接續地の聚落中には既に市街地に編入されたるものもあり、また自ら小市街地を形成して居るものもある。今試みに主なる市街地附近の村落戸口の増加狀況を示し、以てこれ等の市街地の影響を受くること最も大なる附近村落内に包含さる、部落發達の一端を窺ふの資料としたい。

市街地附近戸口調

面名	大正十二年末		大正十四年末		昭和三年末		昭和六年末	
	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口
京城附近								
高陽郡崇仁面	三,三三〇	一六,九三三	三,五五三	三三,四三三	四,〇七六	三三,一八五	五,八四〇	三九,八七九
同 延禧面	一,八七六	九,八六六	二,一〇〇	二一,八四七	二,〇六六	二一,七六三	二,八七七	一四,四三三
同 漢芝面	五,五三〇	二六,九七一	五,三三〇	三二,四〇六	六,四七九	三〇,一八〇	九,四四九	四六,二四六
同 龍江面	四,四三三	二四,三三〇	四,九七九	三三,一〇一	五,四二一	三四,六〇四	九,五四六	四五,五三〇
始興郡永登浦邑	一,一五五	六,三三三	一,〇七七	五,八七七	一,一八三	六,八九四	一,三三〇	八,三三七
同 北面	一,〇五五	七,六四四	一,二七〇	一〇,一三三	一,九四九	一〇,八六六	二,六三〇	一三,三三〇
仁川附近								
富川郡多朱面	一,二五六	六,七九一	一,三三六	七,五二八	一,五三三	七,八〇五	一,六六六	八,四三三
大邱附近								
達城郡達西面	二,〇九三	一〇,七三六	二,二九〇	一二,三三二	二,一四九	一一,八三〇	四,七三三	二二,〇八八
同 壽城面	二,二五六	一〇,七三六	二,二八二	一〇,七三六	二,九三〇	一五,三七六	三,九三三	一七,四三三
同 城北面	一,三三三	七,七六八	一,六四二	八,七九九	一,六六七	九,三三七	一,四三三	九,四九四
同 解顔面	一,三三三	七,七六八	一,二七六	九,〇五五	一,五九三	八,五五六	一,四三七	九,四九四
釜山附近								
東萊郡西面	一,七五四	八,六三三	一,八五五	一〇,四四四	一,九三六	一〇,三七三	二,一六二	一二,六三二
同 沙上面	一,五六六	六,八八七	一,四三三	七,七四一	一,五七七	八,一三六	一,五六九	八,七〇九

同 沙下面	一,四七二	八,七五七	一,六二八	九,四三三	一,七四九	九,四〇九	一,七六九	一〇,一三三
同 東萊邑	三,〇〇四	一五,三三一	三,四〇二	一五,九四四	三,九一〇	一六,四〇四	三,九一〇	一七,六六九
平壤附近								
大同郡大同江面	三,一七二	一五,二四四	三,六三三	一八,三三七	三,七六〇	一六,三三三	三,九一〇	一七,七二八
同 古平面	二,七九一	一五,三六七	二,七六二	一三,七三三	三,〇三三	一三,七三三	三,〇三三	一〇,一三七
同 龍山面	一,六〇〇	八,九三三	一,四〇二	七,〇〇〇	一,七七一	九,八三三	一,七六九	九,八三三
同 西川面	〇,〇〇〇	三,一七二	一,二〇〇	五,四七二	〇,〇〇〇	三,一七二	一,二〇〇	三,一七二
同 南串面	二,四三三	一三,四〇〇	二,七三三	一三,八一九	三,〇三三	一三,八一九	三,〇三三	一三,八一九
同 龍淵面	一,三三三	六,八三三	一,三三三	七,〇三三	一,三三三	七,〇三三	一,三三三	七,〇三三
同 秋乙美面	一,三三三	七,七三三	一,三三三	七,七三三	一,三三三	七,七三三	一,三三三	七,七三三
同 栗里面	一,七二二	八,五九九	一,六二二	九,七三三	一,七二二	九,九三三	一,八二二	一〇,一三三
咸興附近								
咸州郡州西面	一,五九九	一〇,一〇一	一,五七七	一〇,一〇一	一,五七七	一〇,一〇一	一,五七七	一〇,一〇一
同 州北面	一,三三三	七,八三三	一,三三三	七,八三三	一,三三三	七,八三三	一,三三三	七,八三三
同 川原面	〇,〇〇〇	五,三三三	〇,〇〇〇	五,三三三	〇,〇〇〇	五,三三三	〇,〇〇〇	五,三三三
同 興南邑	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇
同 東川面	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇	〇,〇〇〇

備考 一、昭和五年十月咸興府制施行に伴ひ、徳川面一團及び北州東面の大部が東川面に、南州東面一團及び雲田面の大部が雲南面・雲田面の一部が興南邑となりたるを以て、大正十二年・同十四年及び昭和三年は雲田面・南州東面・北州東面及び徳川面の合計を計上し、昭和六年に於ては右四面より北州東面興南邑・會上里の一部(咸興府に編入)を控除したる興南邑・雲南面及び東川面の合計を掲記せり。

二、平壤附近の大同江面及び古平面の昭和六年末戸口の減少せるは、その一部が平壤府に編入されたる結果にして、他の部落の戸口は事實上從來に比し増加し居れり。

即ち市街地附近は、各種社會施設、工場、又は學校地帯として選定され、俸給生活者及び労働者の住宅地と

なり、或は貧民、土幕生活者の蝸集し、果樹・蔬菜・牧畜等の經營者や、市街地相手の運送業者行商者等が集團して戸口の増加を來し、市街の發展に伴ひてその附近聚落も、亦自然に膨脹して行く性質を有して居ることは、右の市街地附近に於ける村落の戸口消長を見ても明かである。而してその市街地の商工業の盛んなるに於ては、一層その傾向は顯著であるが、純然たる消費都邑に於ては、その附近村落の發達も亦幾分か微弱であるけれども、開城地方の聚落の如く、概して近年戸口減少の趨勢を辿つて居るものは例外に屬し、注目すべき現象と謂はねばならぬ。

開城地方の聚落

茲に開城地方と云ふのは、開城府及び開豊郡即ち舊開城郡の行政區劃に屬する地域を指すのである。開城地方は、朝鮮の中央部に位置して、西は禮成江に沿ひ、東は臨津江に沿ふ長湍郡に接し、南は漢江に臨み、北に天摩山、國師峰等の山嶽聳え、西南部に至るに従ひ平地多くして地味肥沃、殊にこの邊一帯人蔭の主産地として著名である。開城市街は、高麗時代の王城の地として、長く繁華を極めたが、李朝時代となり都を漢陽に遷してから、一時火の消えたやうに寂び果てたのである。ところが、政治上の地位を失ひて仕宦の念を絶ち、經濟的活躍に更生の途を見出した麗朝の遺臣等によりて、地方行商の本據たる商業都市が新しく建設され、五百餘年後の今日に至るも、開城は依然として商業上並に金融上に、重要な地位を占め、殊に金持の多いことは全鮮一と稱されて居る。

開城は高勾麗の扶蘇岬、新羅の松嶽郡、高麗の冬比忽と稱したる地にして、高麗太祖二年鐵原より松嶽の南に移し二郡の地に誇りて開州と名け宮闕を創め市廛を立て坊里を辨じて五部に分ち、光宗十一年改めて皇都と爲し、李朝太祖三年都を漢陽に遷す迄長く高麗朝の國都として繁榮した地である。李朝時代、留守觀察使又は府尹を置きたる地にして、光武十年四部を四面とし、更に大正三年四月四部面を併合して松都面と改稱し、大正六年十月指定面と爲り、昭和五年十月府制を布くに至つたもので、面積〇・九〇七方里あり、部落は十三町に分れ、戸數九千六百四十戸、人口四萬六千七百六人に達し、京義線鐵道は市街の南端を通じて居る。北に高さ四八〇米の松嶽山を負ひ、南は一七七米の龍岫山(南山とも云ふ)に而し、西方二〇三米の蜈蚣山を挟み、三面山を以て圍まれ、地形稍圓形の盆地を形成し、河川は大なるものなきも、源を松嶽山に發して南流する白川、源を蜈蚣山と龍岫山の西端に發する烏川、源を成均館附近に發する一無名小川とが、訓練院先端に於て合流し、馬尾川に南流して居る。市街は南大門を中心として發展し、府廳・開豊郡廳・警察署・專賣局出張所・地方法院支廳・少年刑務所・郵便局・開城驛・道立醫院・穀物検査所出張所・公立商業學校・私立高等普通學校・豐德水利組合・殖産銀行支店・漢城銀行支店・開城金融組合・松都金融組合・開城蔘業組合・開城電氣會社・開城醸造會社等の諸會社あり、市内は電燈・電話の設備を有し、市内及び附近は名所舊蹟が頗る多いが、中にも、滿月臺・敬德宮・訓練院・觀德亭・崧陽書院・反求亭・善竹橋・穆清殿・成均館・關王廟・壽昌宮址・太祖顯陵・觀音寺・彩霞洞・紫霞洞・琴釣臺・雙瀑洞・松嶽山・朴淵瀑布等は有名である。斯かる歴史的由緒の

多い地だけに、今も尙ほ古い文化の匂ひが残つて居り、この地方の風俗・習慣・傳説などには特殊なものが多い。陰曆四月八日の觀燈會や端午の節句の鞦韆大會などは、高麗時代の昔を偲ぶに足る古俗であるが、各地に於て漸く廢れんとして居る婦人の被衣が、この地方では今も用ゐられ、途行く女は、貴賤を問はず、白い長い布に面を蔽ひて漫歩して居るなど、如何にも古都の地らしき優雅さを感じしめる。

開城市街は高麗朝以來の古い都會であるだけに、いかにも落付のあるどつしりした感じがする市街である。ここは慶尙北道の安東のやうな兩班の市街と反對に、全然町人の市街たる所に特色があり、その街衢を一瞥したものは、他の朝鮮町に比し、家屋の堂々とした瓦葺屋根の多いことが眼につくであらうが、そこには開城商人が根強き勢力を占めて居るのである。従つてこの市街には土着人以外の活動する餘地少く、戸數九千四百六十戸中、内地人は四百二十戸、外國人は五十五戸に過ぎず、殊に他の多くの市街が内地人によりて發展したるに反し、開城は開城人の努力で築き上げた純朝鮮市街にして、鮮内に入る所に地盤を擴めて行く支那商人も、流石にこの町では全く驥足を伸ばし得ないのである。

開城府の職業別戸數を見るに、農業・牧畜・林業一千二百五戸、工業六百五十一戸、商業及び交通業二千六百十戸、公務及び自由業一千二百二十三戸、其他の有業者三千四百三十八戸、無職業及び職業を申告せざるもの六百十三戸となつて居り、この市街の商業の盛んなことは充分に窺はれる。交通機關の發達と、京城・仁川・平壤などの商業勢力勃興の影響を受けて、昔と今とは商業取引に變化を來し、開城の商圈が縮小されて居るの

は云ふ迄もないが、由來開城商人は質素勤勉、商機を見るに鋭敏で、殊に團結力強く、信用制度が發達して居ることは驚くべきもので、彼等は相率めて全鮮に地方行商を營み、行商者としての開城商人は恰も内地の近江商人に匹敵し、更に金融上に於ては恰も支那の山西票莊にも劣らぬ働きを爲して居る。従つてその商業習慣や金融方法には、今日に於ても尙ほ學ぶべき幾多の卓越せる教訓を存して居るが、就中、金融上に於ては時邊と稱する獨特の貸出方法が行はれ、その貸出高は銀行や金融組合を遙かに凌駕し、商業制度としては唐貨居間・換錢居間・差人制度等の特殊の組織があり、また各種の壓契(商人組合)・博物契(金貨組合)・蔘業組合などの鞏固なる團結を有して居る外、この地に於て發達した開城簿記は夙に有名である。この地方は人蔘の主産地であるが、人蔘のやうな收穫までに長年月を要し、多額の資本を固定させ、危険率の多い生産は、大資本を有する開城人又はその資金の融通を受け得る地方でなければ、到底今日のやうな發達は期待出来なかつたと思ふ。

開城市街は商業を主として居るが、その附近たる開豊郡の中西面・南面・西面・北面・青郊面・東面・進鳳面・中面・上道面・臨漢面・興教面・大聖面・光徳面・嶺南面・嶺北面は、比較的畑地が多く、この地特有の人蔘耕作を行ふ以外は産業上普通の村落と異なつた所は無い。従つてその聚落の形態も、大體他の中部朝鮮地方と同じであるが、行政區劃たる、各面(内地の村)の下に、多くの里(内地の大字)があり、更にその里の下に多くの部落があり、民家は數戸乃至數十戸、多きは百餘戸も一箇所に集團して居るものが多く、村落には藁葺屋根が多いのである。部落の大小並に部落名の一斑を知るに便せんが爲め、臨時土地調査局に於て、嘗て土地調査の



(一分萬五) 近 附 城 開

朝鮮の聚落 (前篇)
 際に調査した各面の部落別戸數及び人口調を左に掲げて見よう。

開城地方各面部落戸口調

洞 里 名	舊洞里名又は部落名	戸 面	数	人	口
墨 松 里	高 鉢 山 洞 (峴 洞)	一八七	一九八	九五三	四三
廣 番 里	廣 須 洞 (峴 洞)	二七三	五二〇	一、四一九	八五
裕 陵 里	裕 研 洞 (峴 洞)	一六七	四二〇	八五五	一六
陽 陵 里	陽 陵 洞 (峴 洞)	一三八	一〇六	六九二	六
排 也 里	排 也 洞 (峴 洞)	三〇二	二七	九七五	一、四二四
右 南 里	右 南 洞 (峴 洞)	三〇二	九	九七五	四〇
德 岩 里	德 岩 洞 (峴 洞)	四四四	九四九	三、三四八	〇七五

加 土 尾 里	食 浦 里	龍 峴 里	二 所 里	一 三 所 里
------------------	-------------	-------------	-------------	------------------

卯加沃	碓食梨	多梨新龍開	琴蓮文筆鳴乙	高牧漁昭陵馬勒冷趙笠井
-----	-----	-------	--------	-------------

土野	峴浦	士木 峴來	阜 琴山	齋岩隱章	齋
----	----	-------	------	------	---

洞洞洞	洞里里	峴洞村洞洞	岩洞洞洞洞	宮洞洞洞內山洞井宮峴洞
-----	-----	-------	-------	-------------

洞
里
名

舊洞
里名
又は
部落
名

◎北

面

戸

一三九	一六一	二五一	二七二	二六五
-----	-----	-----	-----	-----

四八一 八〇一	七七 八六七	二二八 三五一 八三八	四八三 六二七 一六二 七二六	二三 二四一 二一 二八九 二六 七五 九九 〇八	一四 一四 〇八
------------	-----------	-------------------	--------------------------	--	----------------

數

九一九

八一〇	一、三、三	一、三、〇	一、三、三
-----	-------	-------	-------

人

七一四	三三 四八八 二二六	一一四 一七〇 六七六	二四一 三一三 一六五	三一 一三八 一六一	一一 一八四 〇八四	二 二九四 三六三	二 四四 九四 三九〇
-----	------------------	-------------------	-------------------	------------------	------------------	-----------------	----------------------

口

光 德 里	中 連 里	高 尺 里	黃 江 里	寺 盆 里
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

漢間龍杜東光	舟護烏黃新大國冷	西錦問寺	黃柳遠龍德梅	堂栗早禮灘
--------	----------	------	--------	-------

門嶺德寺	軍田壽登	師井	倉城村	江井井山峴溪	頭木發堂
------	------	----	-----	--------	------

橋洞洞洞山	村洞洞洞村洞洞	里津洞洞	浦洞洞洞洞	浦洞洞洞洞
-------	---------	------	-------	-------

洞
里
名

舊洞
里名
又は
部落
名

◎光

德

戸

六一	一六〇	九五	二一九	一五二
----	-----	----	-----	-----

二 一五二 三八二	二 七九五 七一〇 八三	二二 四 三四五 三	四二 五 四三 一八六 一一五 八	四四 四 一五〇 六〇	二 二〇
-----------------	-----------------------	---------------------	----------------------------------	----------------------	---------

數

面

戸

九一八

人

三二二	八九四	四九〇	一、一八一	八六八
-----	-----	-----	-------	-----

二 二一 一四〇	一 一八五 二二四 四四九	一 一 一 一 六 二一 一〇〇	二 二 二 二 一 二四八 九四九	三 一 二 一 一六 一三三	一 一 一 一 一 六九 八三二
----------------	------------------------	------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------	------------------------------------

口

候	昌	東倉	天	松	德	食	大	洞
石	陵	江內	德	山	水	峴	龍	里
里	里	里	里	里	里	里	里	名
後羅海培良盤陵 申坊浪美五山下 洞洞洞池洞洞洞	蔘弓龍後禮 田洞田井成江 洞(尋音)洞洞洞	東倉	梨炭箭	左松	黃艾	食	栗大龍	舊洞名又は部落名
江	江	江	內	谷	谷	門	後山	梅
洞	洞	洞	洞	洞	洞	洞	洞	洞
洞	洞	洞	洞	洞	洞	洞	洞	洞

一五九	三二八	一四六	一三八	一五三	二五六	戶
〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇一	一二五	七二四	四九八	一三〇	數
〇〇一三三四二	一一六六八	七二四	四九八	八七二	六二六	〇〇一三三四二
三九五一四七〇	一〇〇二五	七六三	六二	一一	三五八	三九五一四七〇
九二一	一、六五七	七二六	七九〇	八五八	一、四〇八	人
〇〇〇一一二〇	〇〇四二八	六五九	四六四	三一〇	二五五	口
一四六四六二九	五五四七三	四六四	三二〇	四四〇	七二一	一四六四六二九
六五八九九三六	三二八九五	六四九	七四三	二五九	四四一	六五八九九三六

光	錢	蓮	江	開	礪	洞
井	浦	山		城	峴	里
里	里	里	里	里	里	名
新良光	李廣錢	碧弘芳妙	深大石後	白頭公豐大	黔者灰定礪	舊洞名又は部落名
壘佐井	齋岩浦	淵	深橋	壯井江	鶴三子流井	洞
洞	宮洞	里洞	洞	洞	洞	洞

七二	一一	一六八	一五二	三〇四	一〇六	戶
二一三	一二八	四六四	二二二	六二六	一二一	數
一六四	〇一〇	〇一七	七〇七	七九三	八七〇	二一三
一六四	〇一〇	〇一七	七〇七	七九三	八七〇	一六四
九九九	五七六	七四四	七三〇	一、四四六	五四四	人
一一	一四	一二	一一	三一	一一	口
九〇六	五一〇	九七九	五九五	二二一九	九三五	九〇六
五三一	四七五	七三七	三〇二	四一九〇	五七三	五三一

第十章 都 邑 里	豐洞	館前里	煙霞里	土城里	鶴嶺里	麗陵里	洞		
	德里	館前里	煙霞里	土城里	鶴嶺里	麗陵里	里		
	舊洞 里名	館前里	煙霞里	土城里	鶴嶺里	麗陵里	里		
	舊洞 里名 又は 部落 名	館前里	煙霞里	土城里	鶴嶺里	麗陵里	里		
◎大	起峰粧洞	項臺鶴洞	以國踏伊洞	陵安鳴洞	馬老近寧洞	勒正井陵洞	祖陵洞		
聖	戶	面	一、二八	二、六〇	二、五九	二、五六	一、六四	戶	
一五四	數	四四四 一五二	四五五 六八四	五五五 八五六	八八八 七二八	二二二 二二二 三〇八	二二二 二二二 二二二 二二二 三〇八	六一一 一三四 〇三〇	數
九二二	人	六四七	一、三〇六	一、二九二	一、二六二	一、三五三	人		
七七二	口	二二二 〇二一 九八〇	二二二 三九七 一〇五〇	四四四 五一三 一〇一	一一一 三〇三 二八五	一一一 一四七 二一五	三 〇六 四九	五 一〇 八二 二五	口

朝鮮の聚落 (前篇)	修隅里	照濟里	玉山里	璋山里	新軍里	栗鷹里	站	
	修隅里	照濟里	玉山里	璋山里	新軍里	栗鷹里	橋洞	
	寒高大小殿	黑臺鳳下中上	寺	璋	南衣津東	新命軍	新趙内間蒲栗	
	陵陵 川山座 城城	岩峰集坪坪坪	山	神	浦方	塘店隱	基陵洞(서리)	
洞洞洞洞洞	洞洞洞洞洞洞洞	洞	洞	峰洞洞洞	洞洞洞洞	洞洞洞洞洞洞洞		
◎中	西	面	〇七三	一三二	二〇〇	一三〇	二〇五	西
〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	一〇	〇七三	〇〇〇一	〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇
一二一一	一四一一二〇	〇	一二四一	六二四	〇〇三三三九一	〇〇三三三九一	〇〇三三三九一	〇〇三三三九一
〇九一〇三	五六五五六五	一	九五一五	〇五五	五三〇〇三二二	五三〇〇三二二	五三〇〇三二二	五三〇〇三二二
三五五	六八四	一、〇〇五	五二五	九二七	九二二	九二二	九二二	九二二
〇一〇〇〇	〇二〇一一〇	五	〇一二五	二一一	〇〇一一一四〇	〇〇一一一四〇	〇〇一一一四〇	〇〇一一一四〇
四四五六	七三七二二四	三六五	九二〇七	八一二	二一四三四一五	二一四三四一五	二一四三四一五	二一四三四一五
四三六七五	八二七三七七	二	七五六七	五三七	二〇二五八三七	二〇二五八三七	二〇二五八三七	二〇二五八三七

柳川里	丁串里	仕洞里	佳井里
松樓亭洞 內石上土多乾三古黃 榴藏文坐尊土 谷浦泉洞里洞里城山 瓦仕樓聖槐東陽後 基河分 峴洞里村城洞村谷	後冠嚴弁梨瓮治黃 村山浦村洞井谷山 新梅新元城雲錦古 基谷村里內洞洞里	宮釜竹大羊宗細港石通 基谷村峴山谷洞基洞 蘿后石佳弓砧佳隔間仰 谷谷井伊基洞谷洞村洞	岐廣東馬粉 土山井土 村洞洞洞 米高已棒 井洞谷橋
九六	二〇一	一三四	九五
三一一 一一二 一一二 一一九 一一二 一一二 一一四	一一一 一一一 一一一 一一三 一一三 一一三 一一二	一一一 一一一 一一一 一一一 一一一 一一一 一一一	一一一 一一一 一一一 一一一 一一一 一一一 一一一
六八	二〇六 五一一 二二三	九四四 八一一 一六六	九六一 一一一 四五一 一二六
九二五	五二二	一〇三八	四八七
七五 一九	五 四九九 一一二 二八七八	二 五七四 七一一 二五二 三〇五 二一一 九九	一 五三一 七二二 三二五 四八 〇六一 一〇四 一五七 五
三四 二二	一四九 二一四 〇七二 二二四	五七二 四七一 〇〇五 五五三 三三三 三〇二 九一三	五四四 一一一 二五三 三一〇 八〇七 五九八一
			二二三 三九 四五 七八

探蓮里	月巖里	三達里	古郡里	山歸里	池內里	舊邑里	新竹里	大聖里
採谷大金 蓮桂池 谷村村池 石馬古金 得井塘 洞谷村谷	防鰲中可士同 築蓮庄養 洞洞洞洞同村 輕內寒如葛新 伊井意基 洞洞洞洞山村	廣三 坪達	南古海 昌郡倉	月山 歸	池 內	舊 邑	新 竹	歸玉 道山
一〇一	一二〇	一〇四	一一一	一一六				一四五
二三一 六四二 九	一一一 七八四 二〇九							
三八四 五	二九一 六六六	數	三六 八六	四三 二八 四九	一〇 四二	五〇	九九	九三 四九 六九
五二〇	六一一	人	五七四	八二四	六九〇			九三〇
三一七 八 八七 二九	二三八 六六 五 六一 六三 二一							
一五一 二 一八 四	一四五 七八 二 三三八 六四 八	口	二三 二五 三一	四一 一七 八六 七四 三	六 六二 一九	二 七一	五 三三	五 三二 二六 四八 二八

臨

漢

戸

面

數

人

口

朝鮮の聚落（前篇）

洞 里 名	舊洞里名又は部落名	戸 面	人 口
上 祖 江 里	小同洞、元道洞、加五峴洞、梅里峴洞、栗池峴洞	一二八	九二六
下 照 江 里	内海峴洞、岩井峴洞、栗松峴洞、自樂峴洞	一二八	六五五
吉 水 里	兩清帝德泉、水積嶺、釋水嶺	四二八	一、一八三
古 德 里	古裏上、白嶺、白石	二一八	一、〇六四
吉 祥 里	西上馬下、正正谷、慈慈	一四一	六七四

月 古 里	戸 面	人 口
宮杜玉陵園	一二七	一、九四七
麗源武山	三三三	一、九四七
洞洞洞洞洞	一七〇〇	一、九四七
寺洞洞洞洞	六七四	一、九四七

部落の形態や大小は、勿論地勢によりて一様でないことが判るであらう。高麗朝の都の在つた地だけに、この邊一帶の部落名に、陵墓や古蹟に因めるもの、頗る多いのは當然であるが、蔘圃洞といったやうなこの地方特有のものもある。開城は元來商人の本據であり、その團結力鞏きを以て、その附近には他の地方に多いところの兩班の同族部落の如きは極めて少く、著名なるものとしては、上道面上道里の密陽朴氏の同族八十六戸の集團がある位のもので、中西面麗陵里には、七十餘戸の部落中に王姓を名乗る三十七戸の同族あり、彼等は高麗太祖の子孫と稱し、古來開城人とは結婚しないさうである。開城府及び開豐郡内に於ける内地人の農事經營者は僅に三十九人に過ぎず、従つて内地人の移民部落も、東面白田里新村洞に福岡縣人の十戸の東拓移民があるのみで、開城附近の内地人は、數に於ても經濟力に於ても、實に微々たるものであるが、それにつれても土着の開城人の資力の大なることが窺はれるであらう。彼等は金貸及び地方行商として活動せるのみならず、京畿道・黃海道方面に、地主として有する勢力は實に偉大なるものである。

都市及び村落の經濟力の消長を測定する一方法として、その地方の戸數及び人口の増減を知るは重要なことに屬する。開城地方の經濟状態を調査した所に據ると、この邊の富は殆んど大部分開城府に集積され、市街

と村落との間に貧富の懸隔が甚だしいやうに思はれる。従つて戸口の上に於ても、都市の方では膨脹して居るが、郡部の方は却つて減少して居る事實がある。即ちこの戸口現象は、市街地は景氣が好く繁昌するが、村落は疲弊し衰微しつゝあることを反映するものであるまいか。獨りこの地方に限つたことでないが、市街の立派なるに比して、村落の見すばらしきことは、識者の看過出来ないところである。序に一言して置きたいことは、開城地方が全鮮第一の女の多いと云ふことである。大正十四年一月一日の簡易國勢調査の結果に據ると、全鮮平均の男女比率は、男一〇〇に對し女九四・八二(内地は男一〇〇に對し女九九・〇三)であるが、舊開城郡は女一〇〇に對して男九六にして、昔から女護の島を以て有名な濟州島よりも、尙ほ男に對する女の数の割合が多いのである。これは男の外へ地方行商として出で行く結果でもあらうが、斯かることは男の多い朝鮮としては珍らしい現象である。昔から開城地方には烈女節婦が多く、到る所でその碑石を見受けるが、夫の留守勝なこの地方では、部落の婦女子の教訓上、觀察使や郡守の「善政之碑」よりも、この方が遙かに必要であつたこと、思はれる。

舊開城郡面別戸數人口調

面別	面積	大正十年末		昭和四年末	
		戸數	人口	戸數	人口
南	二・九〇二	一、三八六	七、〇六三	一、四三一	七、五九一
中	四・一二七	一、二七〇	六、三九九	一、三〇一	六、八四四
松	〇・九〇七	七、七二〇	三七、五九二	九、六四〇	四六、七六一
西	五・四四二	九二二	四、三九〇	七九〇	三、七一九
北	四・六一二	一、二〇九	六、六九四	一、一五〇	五、九二一
嶺	六・二五一	九四一	五、二七八	九七六	五、一七四
嶺	三、〇一七	一、七二二	九、三四五	一、九八三	一〇、六二九
東	〇・八九八	七二二	三、五四五	七三〇	三、六六二
進	三・〇一七	九〇一	四、九三八	九七九	五、〇三五
中	三・二七九	一、一四二	五、七九三	一、〇五四	五、六八三
上	二・三八三	七三六	三、六八五	七〇三	三、五七一
臨	三・一六六	一、〇二三	五、四五四	九七七	五、三一八
興	二・七二二	九九三	五、五三四	九八六	五、二四七
大	二・五七五	八九一	四、七九四	九二七	四、七八〇
光	一・九八四	六七八	三、八三五	六九二	三、九〇五
總計	四九・一七四	二三、〇三九	一一八、二四六	二五、〇四一	一一二七、四〇一

面別	面積	戸數	人口
西	一・八九二	七八三	三、九〇七
北	四・六一二	一、二〇九	六、六九四
嶺	五・四四二	九二二	四、三九〇
嶺	六・二五一	九四一	五、二七八
東	三、〇一七	一、七二二	九、三四五
進	〇・八九八	七二二	三、五四五
中	三・〇一七	九〇一	四、九三八
上	三・二七九	一、一四二	五、七九三
臨	二・三八三	七三六	三、六八五
興	三・一六六	一、〇二三	五、四五四
大	二・七二二	九九三	五、五三四
光	二・五七五	八九一	四、七九四
德	一・九八四	六七八	三、八三五
總計	四九・一七四	二三、〇三九	一一八、二四六

即ち舊開城郡(現在の開城府及び開豐郡)の戸口消長を見るに、大正十年末に比し、昭和四年末には、戸數一千九百二戸人口九千五百五十五人を増加して居るが、この間に於て開城市街(舊松郡面)は、戸數一千九百二十戸、人口九千六百十人を増加して居るから、結局郡部(開豐郡の十五面)に於ては却つて戸口の減少を來したことになる。その原因としては、鐵道の開通、産業の發展等の關係上、開城附近に於ける村落の戸口中、漸次市街地に移動集中したのも相當に多いと思はれるが、要するに金貨と出商賣と人蔘耕作に經濟の重心を置く開城地方は、老成の市街で

あつて新興の市街でない。従つて他の商業都市や工業都市並にその附近村落のやうに、戸口増加力の旺盛でないことが判る。斯くの如く、開城附近の郡部が、この數年間に却つて戸口の減少を來したるに對比して、私の特に興味を惹くものは、開城と同時に府制を實施した咸興が、工業都市として近年市街の膨脹著しく、またその附近の村落も戸口の激増を來しつゝありて、何となく新しき生命の躍動して居るやうな、活氣が溢れて見えることである。開城とその附近、咸興とその附近との戸口の消長を冷靜に考察するときは、獨り聚落の研究に止らず、都市及び村落の經營上幾多の暗示が潜んで居るやうに思はれる。

第六節 都邑の經濟勢力

市街地の經濟狀勢

主として戸口の方面より見たる、朝鮮都邑の發達の狀勢に就いては、前數節に於て叙述したから、こゝではその經濟勢力を考察したいと思ふ。しかしながら都邑の經濟狀態を各方面より調査することは容易の業でないので、便宜上、昭和三年朝鮮總督府に於て、市街地の地價改正に際して調査した、市街地及び準市街地の狀勢に據り、朝鮮主要市街地の經濟勢力を比較することにした。

市街地の狀勢調 (昭和三年)

市街地	人口	戸數	營業稅	旅客	貨物	郵便物及	電話	電燈	商業	學校	坪當
面積一方里當	面積一方里當	營業稅	昇降	發着	發着	着	電燈	者戸數	生徒	時坪當	
京城	三、五〇〇、〇〇〇	七〇、二六八	三、三〇、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇人	八七、七〇〇噸	八三、三三、五五五	九、一〇〇	四、四八、八二九	二、六〇〇	四、四七、〇〇〇	四、四七、〇〇〇
仁川	一、〇〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	四、九七〇	一、二六、三三三	一、六八、九三三	六、四〇〇、七三三	九七	二、四、五八九	二、〇〇〇	五、一、三三七	一、六〇〇
水原	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	六、三二六	四、〇〇〇人	六、二九六	一、一三、〇〇〇	三〇	三、三三三	九七	〇、七七一	〇、〇〇〇
松都	四、五九九	九、三三九	一、三三七	四、三、一〇〇	五、九三九	四、三三〇、六六六	三三	一、一、六五六	三、三三三	五、一、〇〇一	一〇、〇〇〇
清州	一、一三、三九五	一、一三、三九五	七、二二六	一、〇〇、〇〇〇	二、七〇、〇〇〇	一、九八、八八四	三〇	三、三三三	六七七	三、三三七	一七、五五六
公州	一〇、一三三	一〇、一三三	三、三三三	四、八、五三六	九、九六六	一、四〇、〇〇〇	一三	二、〇〇〇	一、三三〇	二、〇〇六	三、一七七
大田	一、九七三	一、九七三	一〇、一三三	四、七、三三三	六、六、六六六	三、三三〇、九六六	六六	〇、〇〇〇	一、三三三	三、三三三	三、一〇一
江景	三、三三三	三、三三三	〇、〇〇〇	二、六、三三三	一、四、三三三	一、四、三三三	一七	一、三三三	一、三三三	一、三三三	〇、〇〇〇
群山	三、三三三	三、三三三	三、三三三	七、三、三三三	七、六、〇〇七	四、八、三三三	七	二、三三三	一、三三三	二、六六六	一〇、〇〇〇

州	浦	州	州	州	州	州	州	州	州
全州	三三,〇三五	四,八七四	一,一三七	三九,七二〇	六,二七一	三,六三三,七七	三九三	七,七四五	七,六七
木浦	二九,二四三	五,九八八	三,四七一	六四,一七〇	二九,九八八	五,七四三,七四	七〇	二,二五〇	三,七三七
羅州	一八,七四八	一,八八八	一,六六九	一七四,九七七	一三,四四五	七六三,七四七	七五	一,五〇四	一,三〇九
光州	三三,七九九	四,〇八八	一,三三七	一七四,九七七	一三,四四五	七六三,七四七	七五	一,五〇四	一,三〇九
大邱	一〇,〇七二	一,八八八	四九,九〇六	一,一三三,五五一	三三,六五〇	九,九九〇,五三一	一,三三七	四,五九三	一〇,七三六
金泉	一三,三三三	三,三九一	六,六七九	三九三,六六九	五八,四四五	二,二二五,七五七	三三七	二,一八三	二,〇三二
釜山	一一,八六九	二,四六七	九,六〇六	一,六六七,四四〇	一七,四六六,一〇八	一七,四六六,一〇八	二,五六〇	六三,九八五	一一,九三二
馬山	三三,二四三	五,三三三	一〇,三〇〇	一八八,一三三	二,三三三,三三三	二,三三三,三三三	三三三	二,二五〇	二,二五〇
晋州	三三,二四三	五,三三三	七,六六六	二〇九,五五五	一八八,七三三	二,二八二,一六七	二二〇	七,一四〇	二,二五〇
海州	一七,六六六	一,八八八	一〇,三三三	七〇,〇〇〇	七,五七九	二,二八〇,三三三	二四四	五,一三七	二,六六〇

市	街地	面積	人口	營業稅	旅客	貨物	郵便物	電報	電話	電燈	商工業者	學校生徒	坪均
平壤	二九,七二九	二六,七二九	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
鎮南浦	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
新義州	二四,〇〇〇	二四,〇〇〇	二四,〇〇〇	二四,〇〇〇	二四,〇〇〇	二四,〇〇〇	二四,〇〇〇	二四,〇〇〇	二四,〇〇〇	二四,〇〇〇	二四,〇〇〇	二四,〇〇〇	二四,〇〇〇
義州	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
元山	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
咸興	九四,一三〇	九四,一三〇	九四,一三〇	九四,一三〇	九四,一三〇	九四,一三〇	九四,一三〇	九四,一三〇	九四,一三〇	九四,一三〇	九四,一三〇	九四,一三〇	九四,一三〇
清津	三三,五三三	三三,五三三	三三,五三三	三三,五三三	三三,五三三	三三,五三三	三三,五三三	三三,五三三	三三,五三三	三三,五三三	三三,五三三	三三,五三三	三三,五三三

準市街地の状態調 (昭和三年)

指定面	人口	坪均	營業稅	旅客	貨物	郵便物	電報	電話	電燈	商工業者	學校生徒	坪均
永登浦	一五,四七九	一五,四七九	一五,四七九	一五,四七九	一五,四七九	一五,四七九	一五,四七九	一五,四七九	一五,四七九	一五,四七九	一五,四七九	一五,四七九

春川	七、八三五	一、六九八	三、四二二	二、四八五	三、四四四	二、〇五五、一五六	四、六六一	一、五〇四、五二〇	六、七四四	一、五二五	三、四七		
江陵	二、〇三三	二、六二二	一、〇九七	二、五七	二、五九三	八、八七	六、四四、四三六	四、六七二	一〇〇	一	八七	一、〇六六	一、九
鐵原	一〇、九九五	一、九六七	二、三三	二、五七	二、五九三	六、四四、四三六	四、六七二	一〇〇	一	八七	一、〇六六	一、九	
北青	二、三三	二、三三	二、三三	二、三三	二、三三	二、三三	二、三三	二、三三	二、三三	二、三三	二、三三	二、三三	二、三三
羅南	二、四八五	二、四八五	二、四八五	二、四八五	二、四八五	二、四八五	二、四八五	二、四八五	二、四八五	二、四八五	二、四八五	二、四八五	二、四八五
會寧	一、三、五三三	一、三、五三三	一、三、五三三	一、三、五三三	一、三、五三三	一、三、五三三	一、三、五三三	一、三、五三三	一、三、五三三	一、三、五三三	一、三、五三三	一、三、五三三	一、三、五三三
城津	一、五、九六六	一、五、九六六	一、五、九六六	一、五、九六六	一、五、九六六	一、五、九六六	一、五、九六六	一、五、九六六	一、五、九六六	一、五、九六六	一、五、九六六	一、五、九六六	一、五、九六六
雄基	二、一、五八九	二、一、五八九	二、一、五八九	二、一、五八九	二、一、五八九	二、一、五八九	二、一、五八九	二、一、五八九	二、一、五八九	二、一、五八九	二、一、五八九	二、一、五八九	二、一、五八九
濟州	二、四、七五八	二、四、七五八	二、四、七五八	二、四、七五八	二、四、七五八	二、四、七五八	二、四、七五八	二、四、七五八	二、四、七五八	二、四、七五八	二、四、七五八	二、四、七五八	二、四、七五八

以上の調査を一瞥しても明瞭なる通り、朝鮮の市街地は、僅に數個の都邑を除けば、その經濟力に於ても文化施設に於ても洵に貧弱極まるものであり、殊にその生産力の乏しきことは、右の調査には現はれて居らぬが

思ひ半ばに過ぐるものがある。市街の大部分が古來よりの行政官廳の所在地たる所謂消費都邑であるといふことも、その經濟勢力の伸張せざる原因であらうが、概して都邑の背後を爲す村落經濟の不振であることも、亦都市の發達を遅緩ならしめて居る主因であると信ずる。

市街地不振の原因

都市の發達せざる根本原因は素より一二に止まるものでなく、種々の原因が錯綜し影響して居ることは言を俟たないのである。私は未熟ながら、年來各方面より朝鮮の經濟を調査研究した結果、李朝時代に在りて、朝鮮に於ける市街地の發達せざりし原因は、大要左の數點に歸し得るものと考察して居る。勿論各項目それ〴〵大小輕重あり、必ずしも一率に論じ難いが、試みにこれを要約して列擧して見よう。

李朝時代市街地の發達せざりし原因

- 一、朝鮮に於ては古來農業本位の經濟生活を營み、戸口の大部分が村落に分布し、且つ都市の背後地たる村落經濟の貧弱なりしこと。
- 二、内地に於ては封建時代より城下町が發達して居たが、朝鮮は郡縣制度で、内地の諸侯が領民を保護愛撫したやうな例は見出し得ず、觀察使・郡守・府尹等が苛斂誅求をことゝし、加ふるに邑城の制もありて、都市の膨脹發達を妨げたる點尠からざること。
- 三、内地に於ては日限市場の所在地が次第に發達して市街になつたが、朝鮮では商業上の保護監督宜しきを得

す、且つ貨幣の進歩を見るに至らざりし結果、依然として原始的取引方法の日限市場が存在し、多くの場合その所在地に常設店舗が餘り増加せず、従つて市街地を形成するに至らざりしこと。

四、内地に於ては幕府も諸侯もまた人民自らも、港灣・道路・橋梁・河川等の交通及び土木工事を勵行して、人口の都市集中と商工業の發達を助成したが、朝鮮には殆んど其點に何等の施設なかりしこと。

五、徳川時代の鎖國政策はありしも、内地人は商業貿易上概して進取的であつたが、朝鮮は徹頭徹尾、退嬰鎖港的で、自ら海外と貿易を行ふ如きことの無かりし結果、港街の發達せざりしこと。

六、内地に於ては各種の地方的特産品生産地が、その生産の發達により市街地となつたが、朝鮮に於ては特産品を官府の貢物として徵發し、又はこれに惡税を課し、或は人民自らも努力せずして、斯かる市街を生ずるに至らざりしこと。

七、内地人は信仰心厚く、神社・寺院・靈場の所在地は四時その參詣者多く、これを目當とした店舗・宿屋・遊廓・料理屋などが繁昌して所謂門前町を爲して居るが、從來朝鮮には神社無く、寺院はその數も少く且つ山奥にありて民衆と接觸せず、従つて市街地の發達に何等關係を有せざること。

八、朝鮮に於ては愚劣極まる風水説の行はれ居る結果、住居地の選定上に制限を受け、經濟的に發展し得る見込ある地にも有力者の定住せざりしこと。

九、朝鮮に於ては同族觀念強く、兩班其他有力者中の同姓のものが、一地方に集團部落を構成しあり、また官

府の誅求を免れる爲め資産家の市街地に定住するもの少かりしこと。

一〇、開城及び平壤商人の如き特殊の例外はあるが、李朝時代に在りては朝鮮の市街地に於ける自治は發達せず、概して共同事業の經營に成功せざりしこと。

一一、内地の都會は獨り商業取引の上のみならず、學問・武藝・美術・工藝の中心で、諸國からそこを訪ひ、そこに修業するものが絶ゆることなく、勢ひ市街を發達せしめたが、朝鮮には斯かる市街は殆んど無かりしこと。

一二、内地の市街には、歌舞伎・淨瑠璃・人形芝居・神樂・相撲等の娛樂競技・溫泉場・遊覽地、其他地方的の祭祀や催しありて市街生活に興味と潤ひありしも、朝鮮の市街は無味乾燥にして、人口の都市集中に沒交渉なりしこと。

一三、漁業の幼稚にして、漁村又は漁業の根據地の市街地として發達せざりしこと。

一四、内地に比して朝鮮の方が遙かに物資の生産力乏しく、また人口の密度も低きを以て、人口の都市集中を遅々たらしめたること。

一五、内地に於ては幕府及び各藩に經世濟民、殖産興業の學大に興りたるも、朝鮮に於ては、兩班儒林が商工業を卑み、都邑に適當なる指導者たる中心人物の無かりしこと。

一六、都市に商工業興らず、官吏は人民を搾取し、資力あるものが金貨・地主に着眼したる結果、一方農村を

疲弊せしめると同時に都市の發展を妨げたること。

一七、地勢上、水運を利用し得る聚落少く（脊梁山脈以北に於て特に然り）、従つて市街地の發展を見ざりしこと。

一八、氣象及び地勢上、旱魃・水害を蒙ること多く、自然聚落の發展を困難ならしめたること。

一九、住民の多數に愛郷の念乏しく、先天的に一定の地に土着せず、住居を轉々移動する弊あること。

二〇、住民が大部分不生産的にして、勤勉努力せず、貯蓄心乏しく、都市の建設とその發展に適せざりしこと。

以上の外にも、朝鮮に於ける都市の發展を阻害した大小の原因があるかも知れないが、要するに村落の疲弊し、都市の不振なるは、これを構成する住民の素質優秀ならざることが根本の理由を爲して居る。過去に於ける朝鮮經濟の衰頹を以て、その基因を、天然資源の貧弱と、旱害・水害の如き天候の迫害を受くること多きのみ歸せんとする人あるも、成る程これを悉く否定する譯には行かないが、斯くの如き自然の下に於ては、本來ならば、獨逸・白耳義・瑞西の如き刻苦精勵、質素儉約な、忍耐力強き、發明心に富み、進取の氣象に充ちたる、團結心の鞏き、自主獨立的な、國民性を涵養して、内にあつては巧みに自然を利用征服し、支那・西班牙・伊太利の如く外に出で、は移民に成功し、内外相呼應して政治的・經濟的發展を來したることは、世界の經濟史及び植民史が數多くの實例を示して居る。然るに不幸にして朝鮮民族が、既往數世紀に於て、政治的に

經濟的に歩み來りし道は如何なるものであつたらうか。都市と云はず村落と云はず、その發達せざるに就いては、蓋し由來する所、遠く且つ深いのである。これを要するに朝鮮都市の實質は、僅に數個の市街を除けば、農村聚落の域を脱すること遠からざるものであるまいか。

都市の文化施設

併合以來、諸般の制度は改善され、交通・土木・産業・金融・貿易・商業・教育・衛生、其他各般の都市施設は面目を一新した結果、併合當時と今日とは朝鮮に於ける市街地の戸口・體裁・經濟力・文化施設等に於ては格段の差異を來して居ることは言ふ迄もない。これを要するに日韓併合を轉機として朝鮮は社會狀態も經濟組織も國民生活も、將に一變しつゝあるのである。従つて何百年の間殆んど變化を見なかつた舊市街たる邑内も、街衢の體裁・民屋の構造・經濟の勢力等一變を來し、戸口の増加驚くべきものがあり、市街の發展は邑城の外に、或は新設の停車場又は港灣附近に伸びて著しく膨脹して居る。しかしながら木浦・大邱・大田・群山・鎮海・新義州・羅南などの新市街地を除けば、多くの市街は雜然と膨脹し不規則に發展したものである。されば京城・平壤・釜山等の大市街地に於ては既に都市計畫が企畫され、大體三十年後の發展を豫想して、市街地・道路・河川・上下水道・電車・公園・市場・火葬場・社會施設等、諸種の計畫が實行されて居ることは、拙著「平壤府」を繕いても明瞭なる如く、區域の擴張、區劃の整理、工場地の設定、河川の改修、交通機關の普及、公營事業等が着々として行はれて居る。その他の地に於ても新しく市街の建設さる、場合には、相

當の理想を以て都市の計畫が樹立されて居り、また近く朝鮮總督府に於ては、都市計畫に關する法規を發布することになつて居るので、今後は市街地の計畫に一定の規準が設けられ、交通・經濟・衛生・美觀等の上に、徐々に改善進歩を見ることを期待されて居るが、差當つて左の諸點に就いては、都市と云はず村落と云はず、民家の集團大なるものには是非とも實行すべきである。

一、雜然として不統一なる都邑の膨脹は、交通・經濟・文化・衛生等、市民生活と都邑發達の上に遺憾尠らざるを以て、新市街の設定と舊市街の整理に當りては、財政的にも技術的にも須らく遠大なる根本計畫を樹立すること。

二、朝鮮の市街地に於ては、道路・鐵道・港灣・電車・乗合自動車等の設備に不完全なもの多きを以て、これ等交通機關の普及發達を計ること。

三、朝鮮に於ける都邑の發達せざりし一因は、その地方に特色ある産業が興らず、且つ大量生産の行はれざる結果であるから、その附近の豊富なる原料・勞力・動力・燃料等天然資料を巧みに利用し、適當なる資本・設備を以て、その都邑をして生産的に特殊の地位を占めしむるやう努力すること。

四、都邑及びその背後の生産品に對し販路を開拓し、生産者の利益を確保する爲め、内地及び支那・滿洲・其他需要地との聯絡を便ならしめ、取引上必要なる會社・商店・市場・金融・運輸・倉庫・保險等の機關を充實し、生産及び販賣上の統制協力を計ること。

五、朝鮮の市街地に於ては、水道の設備あるもの少く、井水又は自然の湧泉等飲料水の良質ならざるものも多しから、速かに水道を普及し、止むを得ざる場合には簡易水道又は地下水の利用を計り、同時に豊富なる水力・燃料を利用して電力を起し、燈火及び動力に一大革命を齎らし、生活上並に産業上の利便を計ること。

六、朝鮮の市街地は下水・井戸・便所、其他の清潔裝置に甚だしき缺陷あり、首都城に於てすら便所の設備なき民家數千戸に達する始末である。さればこれ等の清潔裝置に對する監督取締を勵行し、速かに進歩したる衛生施設を實行すること。

七、朝鮮の市街地は甚だしく不體裁であるが、特に土幕民家及び不良住宅の整理・住宅地經營・公營住宅・共同便所・共同浴場・共同洗濯場・火葬場・墓地等の公共設備を完成すること。

八、朝鮮の市街地に於ては、數個の都邑を除けば、一般に社會施設が不備であるから、下層民の多い關係より見て、特に公設質屋・公設市場・職業紹介所・簡易食堂・無料宿泊所・托兒所等の社會施設を完成せしむること。

九、朝鮮の市街地は死亡率高く、就中京城の如きは乳幼兒の死亡率に於て大阪を遙かに凌駕し世界第一になつて居る。これは醫療衛生機關の普及せざるにも因るが、診察料藥價等が一般の民度及び所得に較べて法外に高い結果、中流以下の府民は充分に醫療を爲し得ざる爲めである。されば藥價診察料等の低減と、實費診療所・施設施設・巡回診療等を徹底せしむることは、現在の朝鮮に於ては特に緊要である。

一〇、朝鮮の都邑には文化施設に於て大に缺くる所あり、されば神社・寺院・教會・公園・遊園地・運動場・公會堂・圖書館・科學館・博物館・物産陳列館・劇場・活動寫眞館等の設備を完成し、市民の信仰・休養・慰安・修養・娛樂・運動等に便ならしむること。

以上は朝鮮の都市施設上最も急務なりと認めたるもの、みを擧げたに過ぎず、これに市街地を建設するに就いては、都市計畫の規定に準據し、永き將來を豫想して高遠なる理想の下に施設を進めねばならぬが、由來朝鮮は他に比類なき農業地であるから、田園都市の經營に關しては、地勢・氣候・産業・民度・風俗・習慣等を參酌し、獨特の工夫を要することは言を俟たない。而して麗はしき住心地良き大小市街地の出現は、獨り官公の施設に止まらず、住民の心掛如何に依ることが大であるから、市民を都市生活に適するやう教養訓練することも亦極めて必要である。

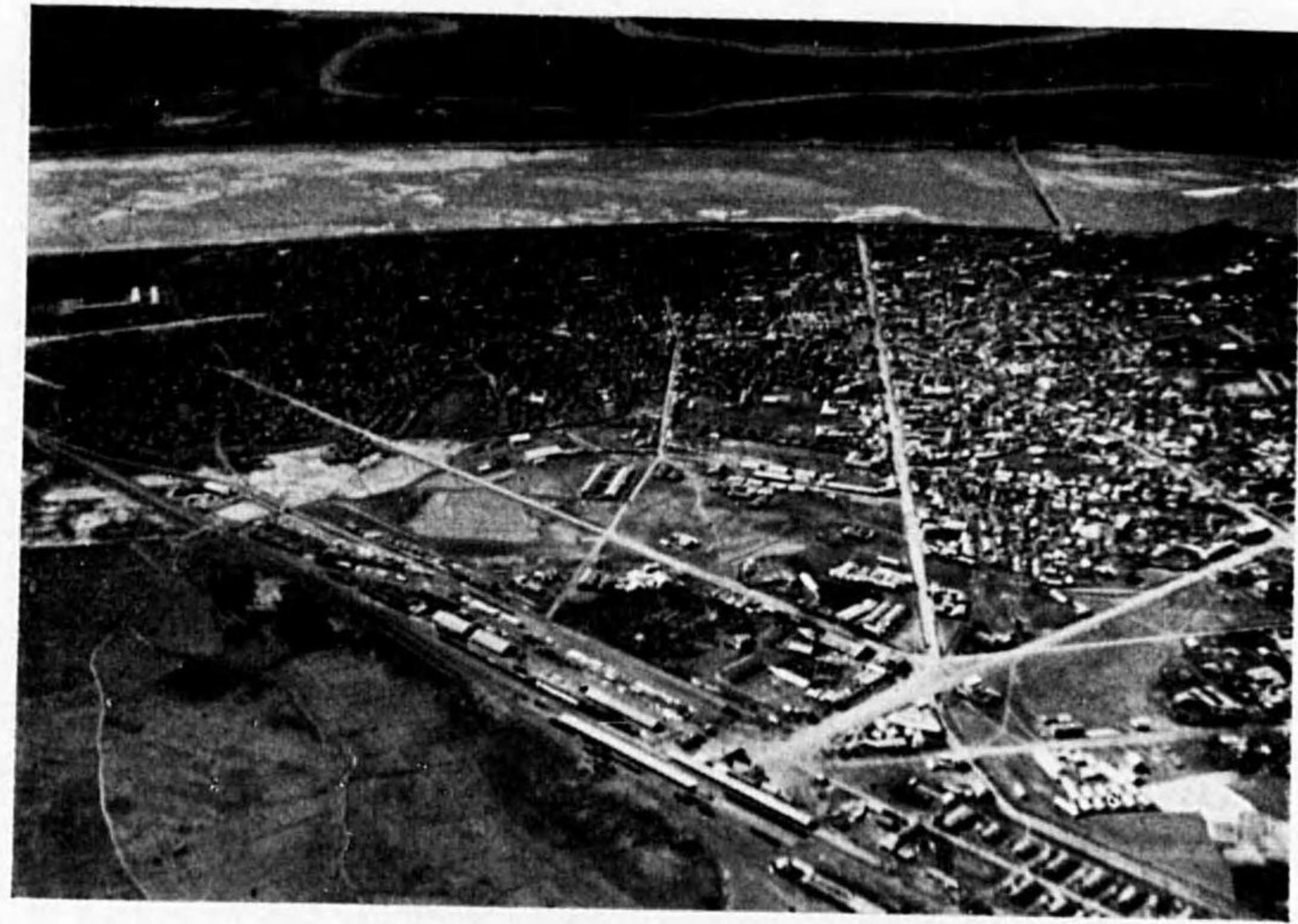
朝鮮の聚落 前篇 (終)



城 京



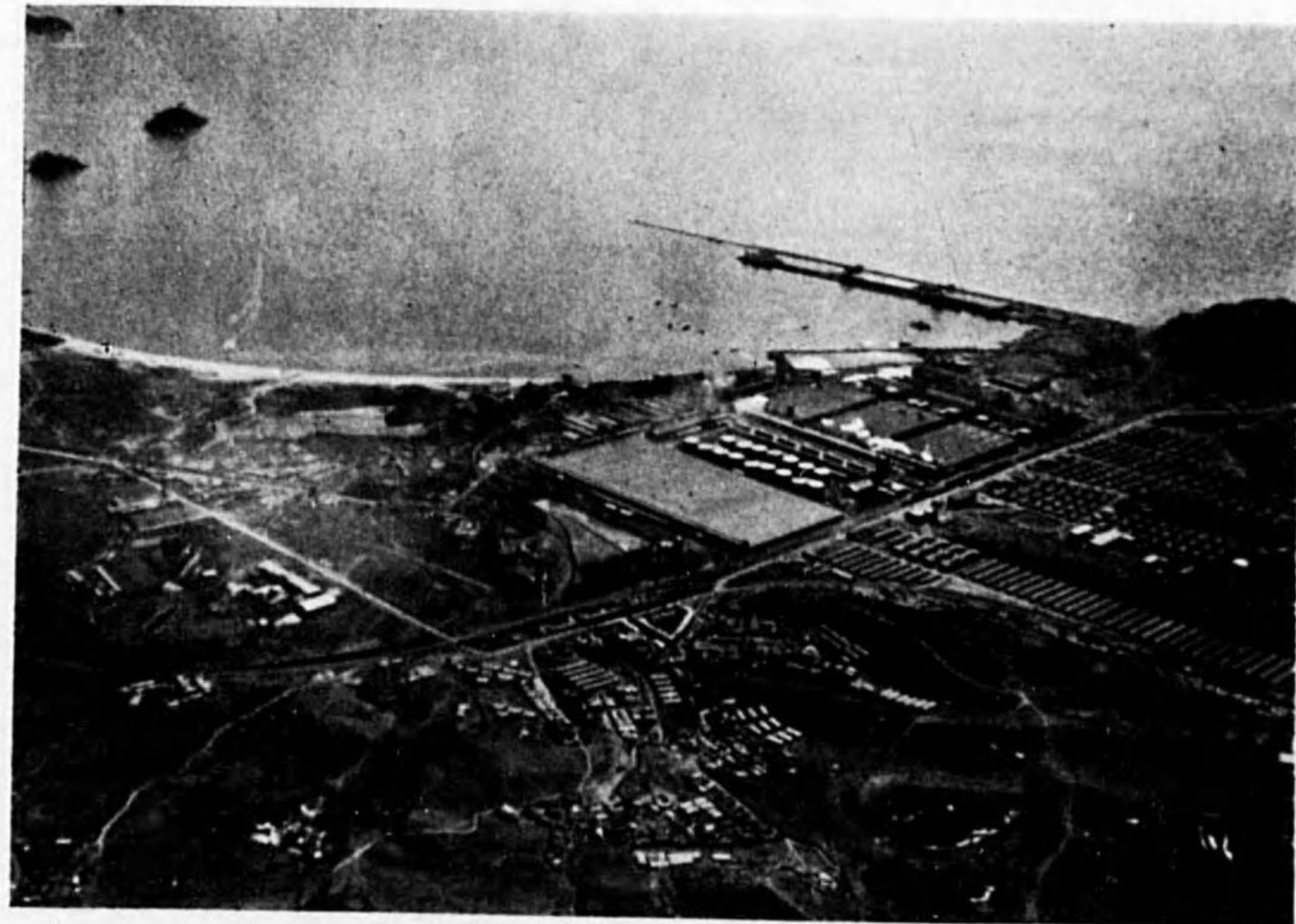
壤 平



興 成



邱 大



南 興



田 大



水 原



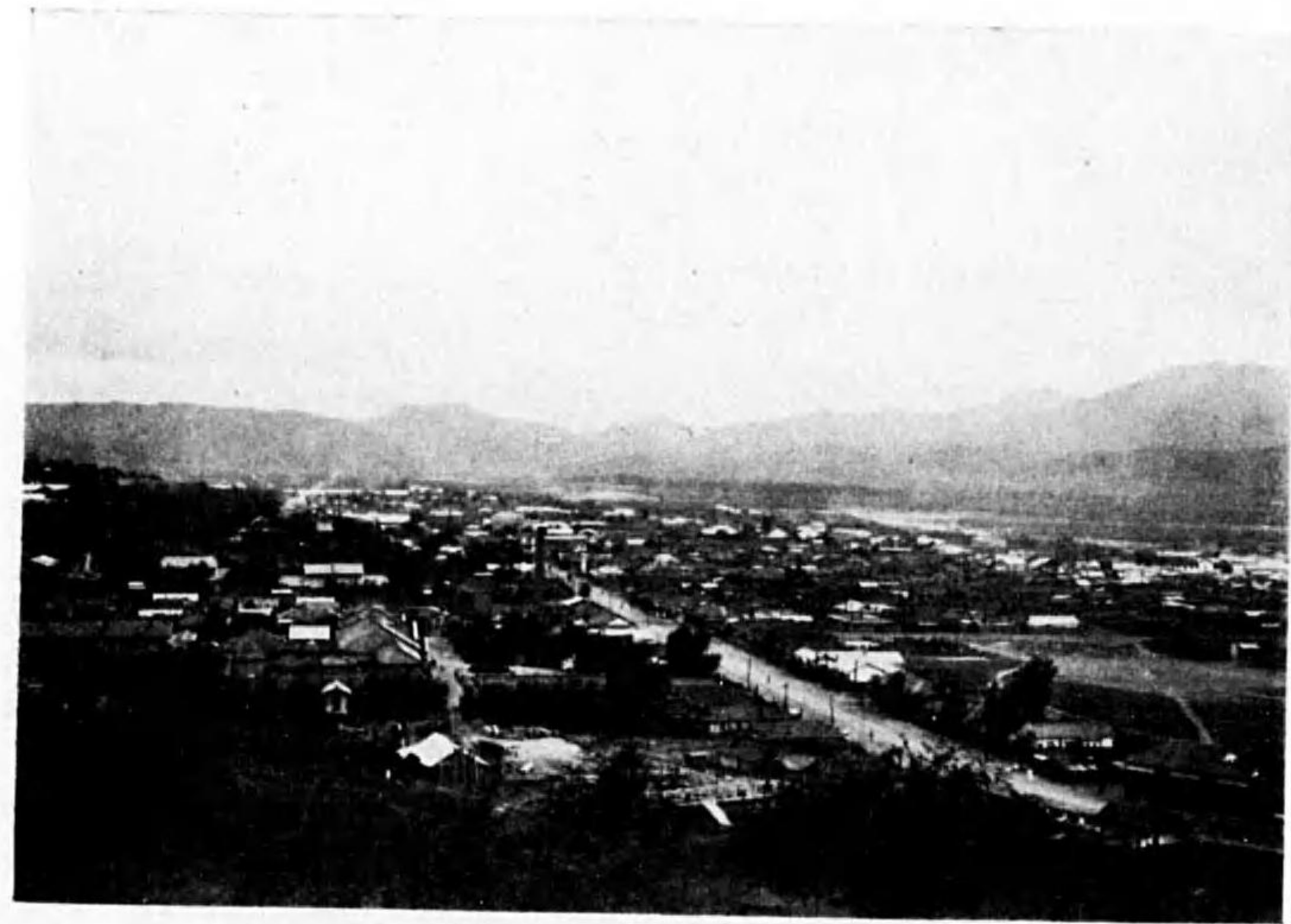
仁 川



鐵 原



清 津



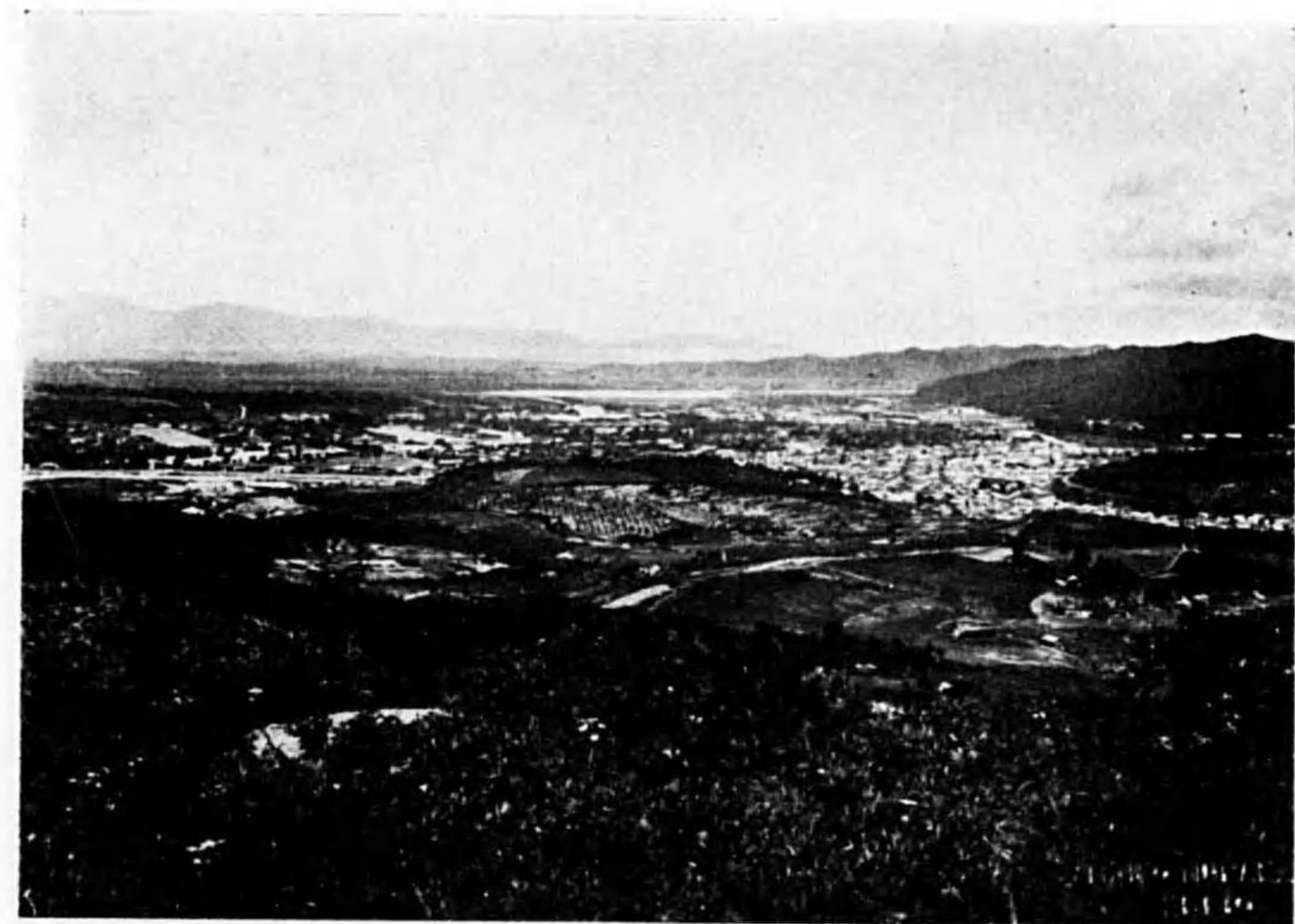
會 寧



開 城



鐘 城



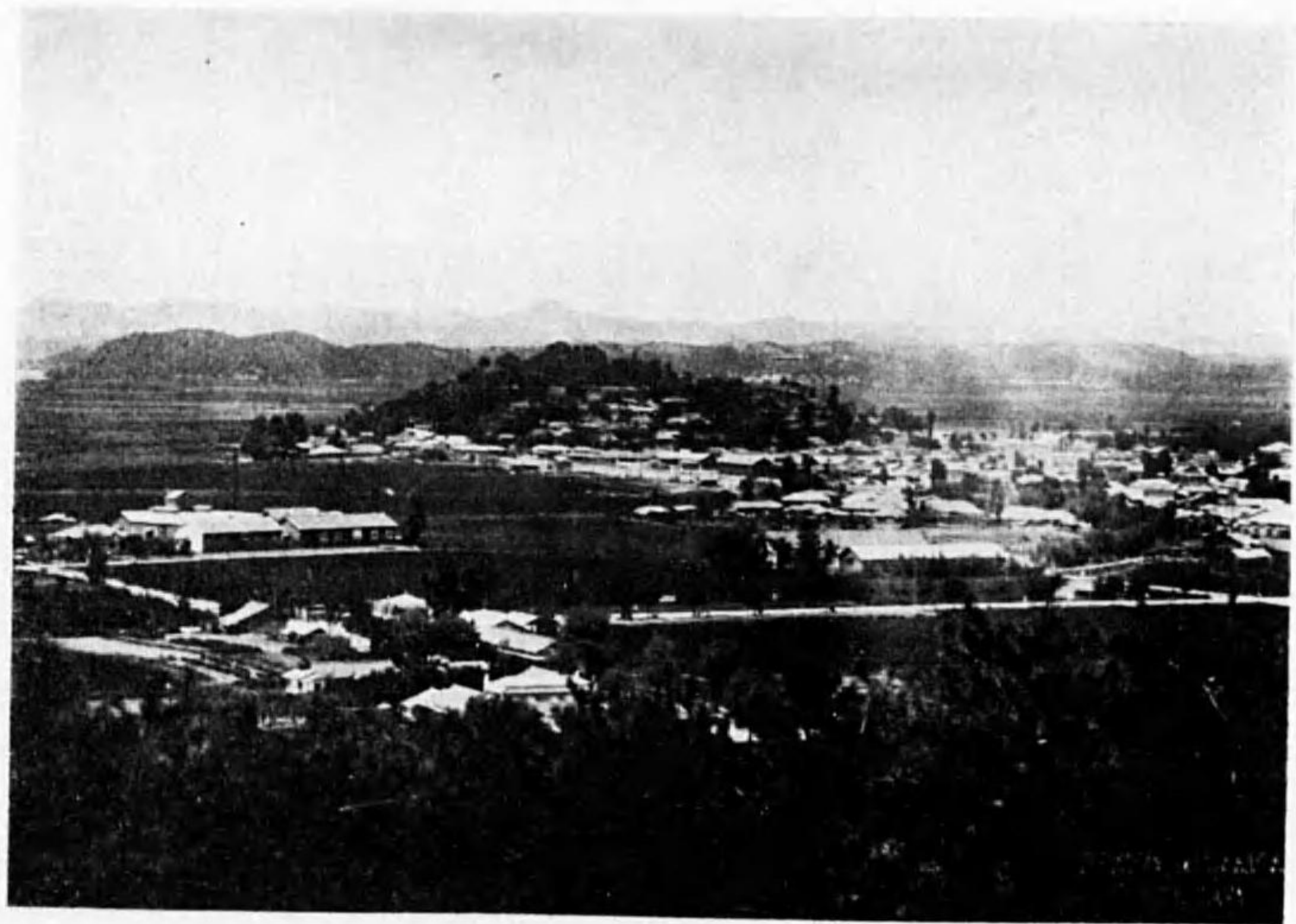
南 羅



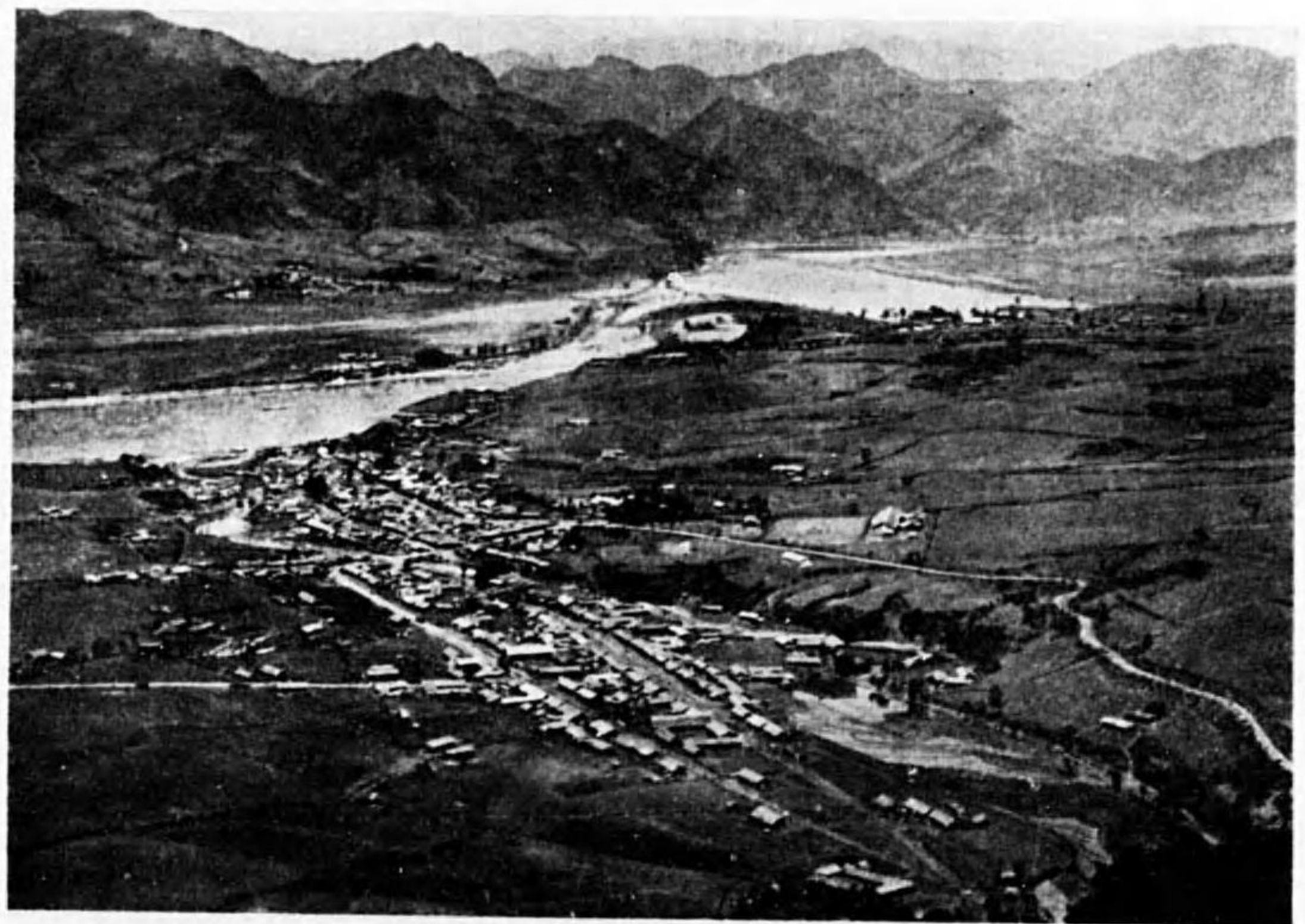
山 蔚



鎮 坡 忽 新



景 江



鎮 浦 滿



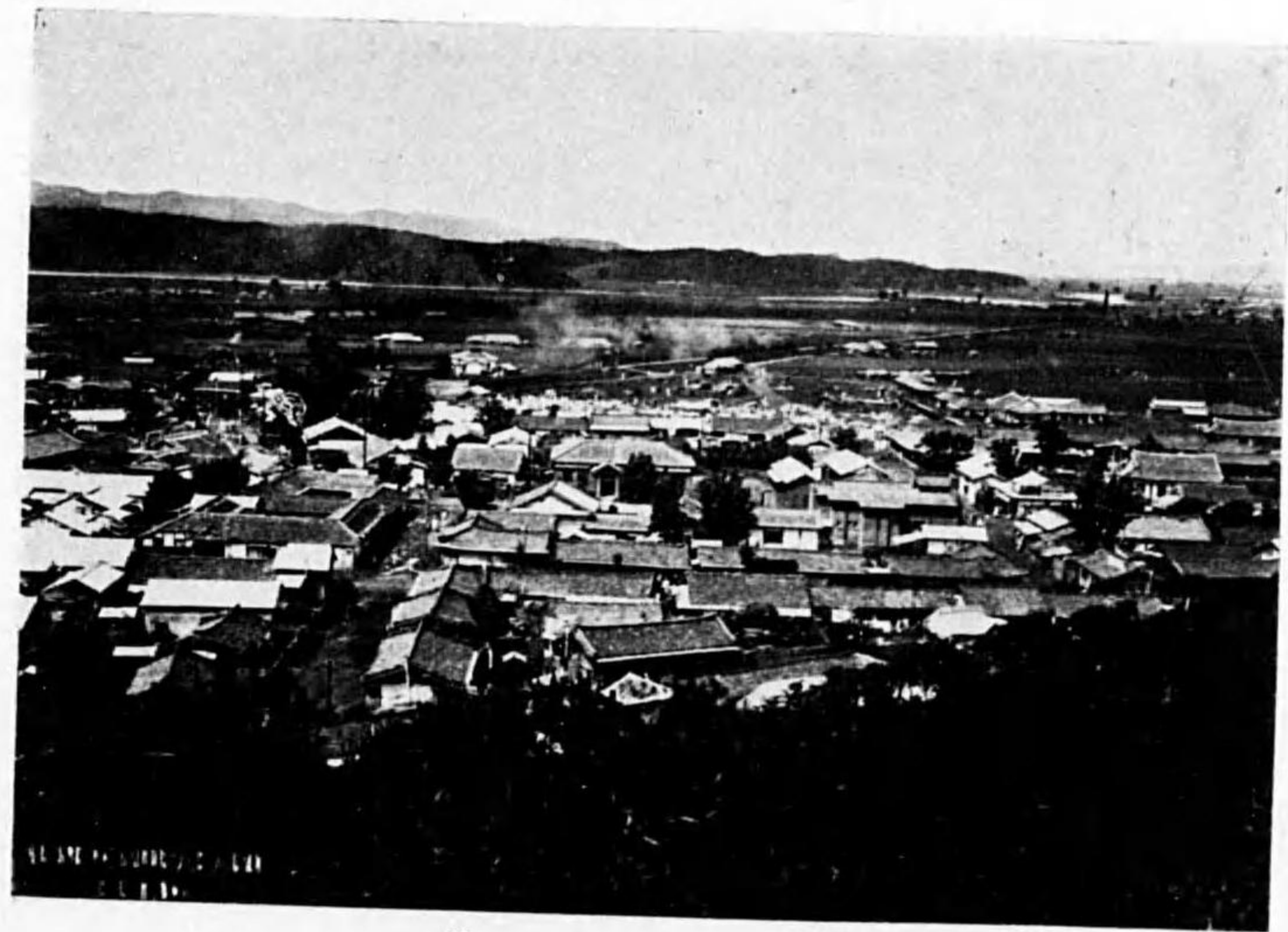
興 瑞



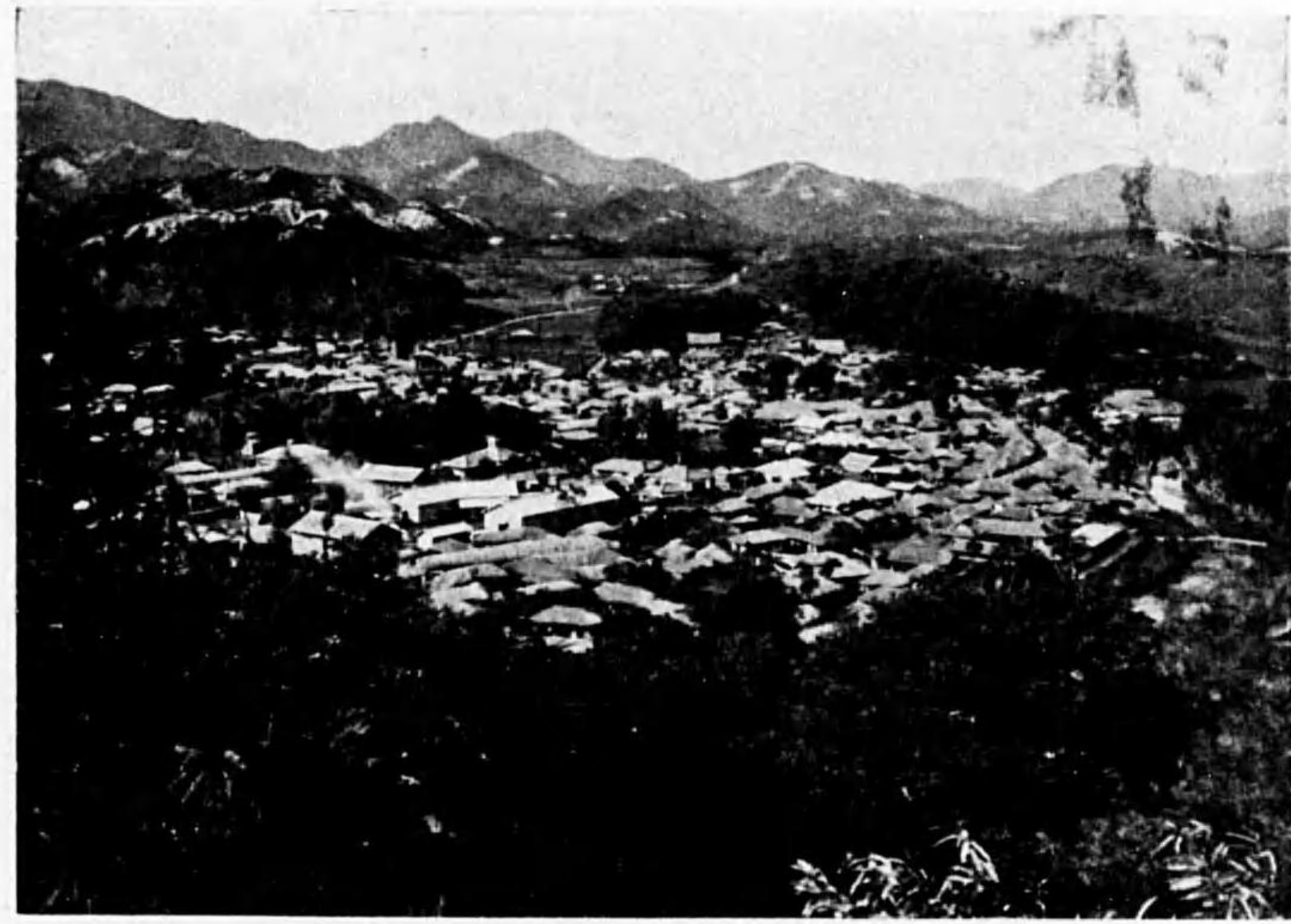
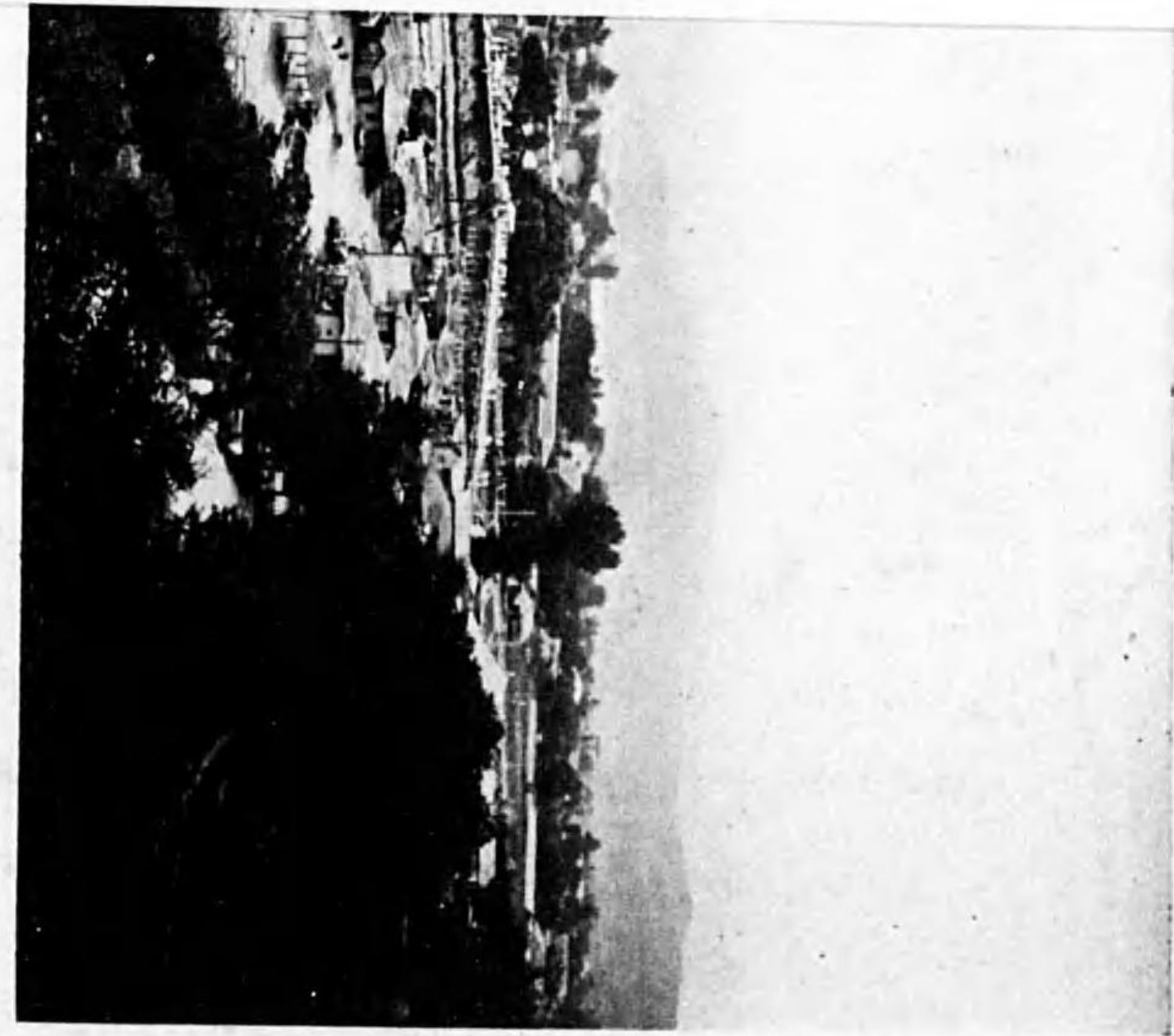
浦 登 水



浦 巖 龍



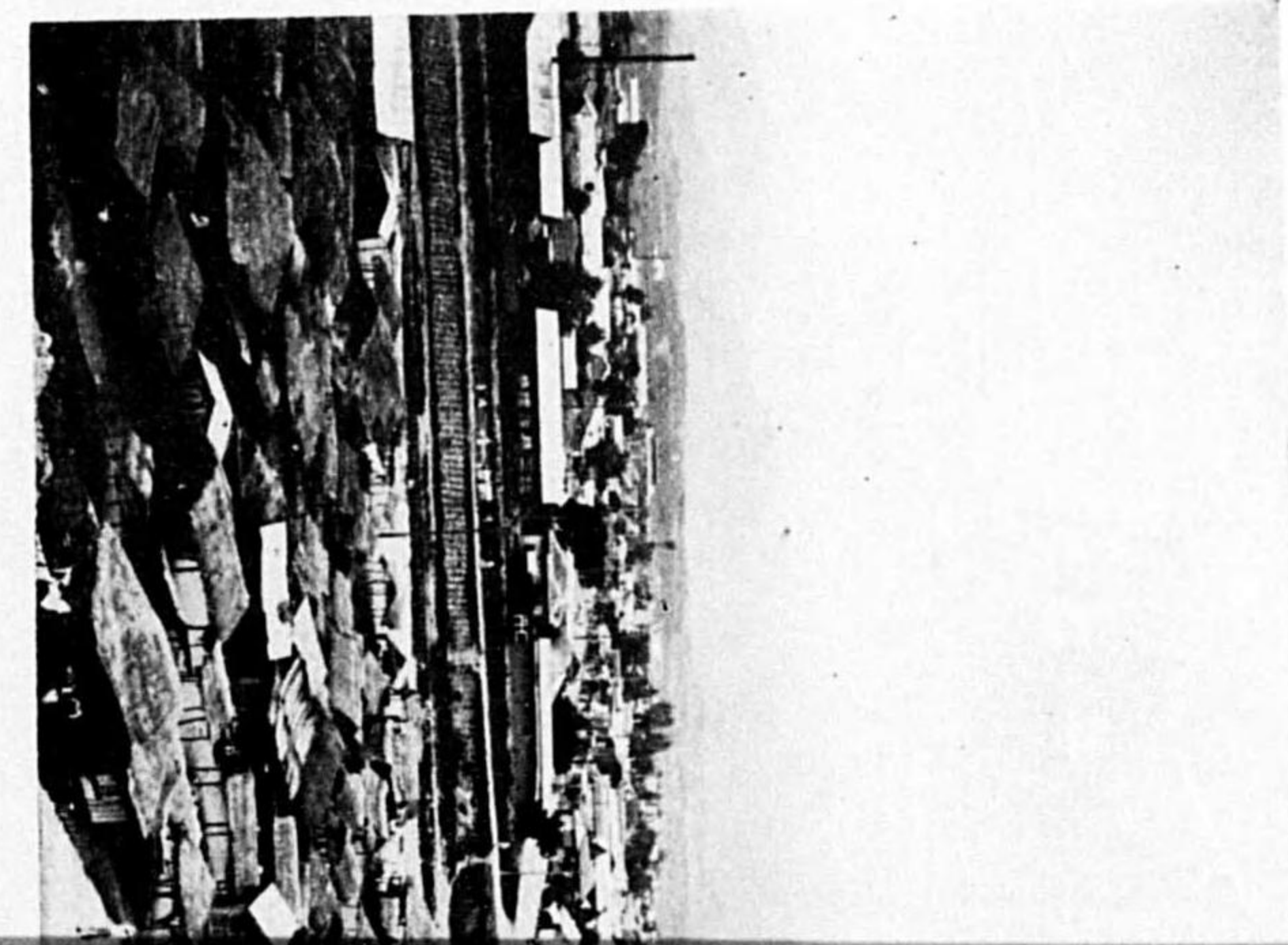
川 价

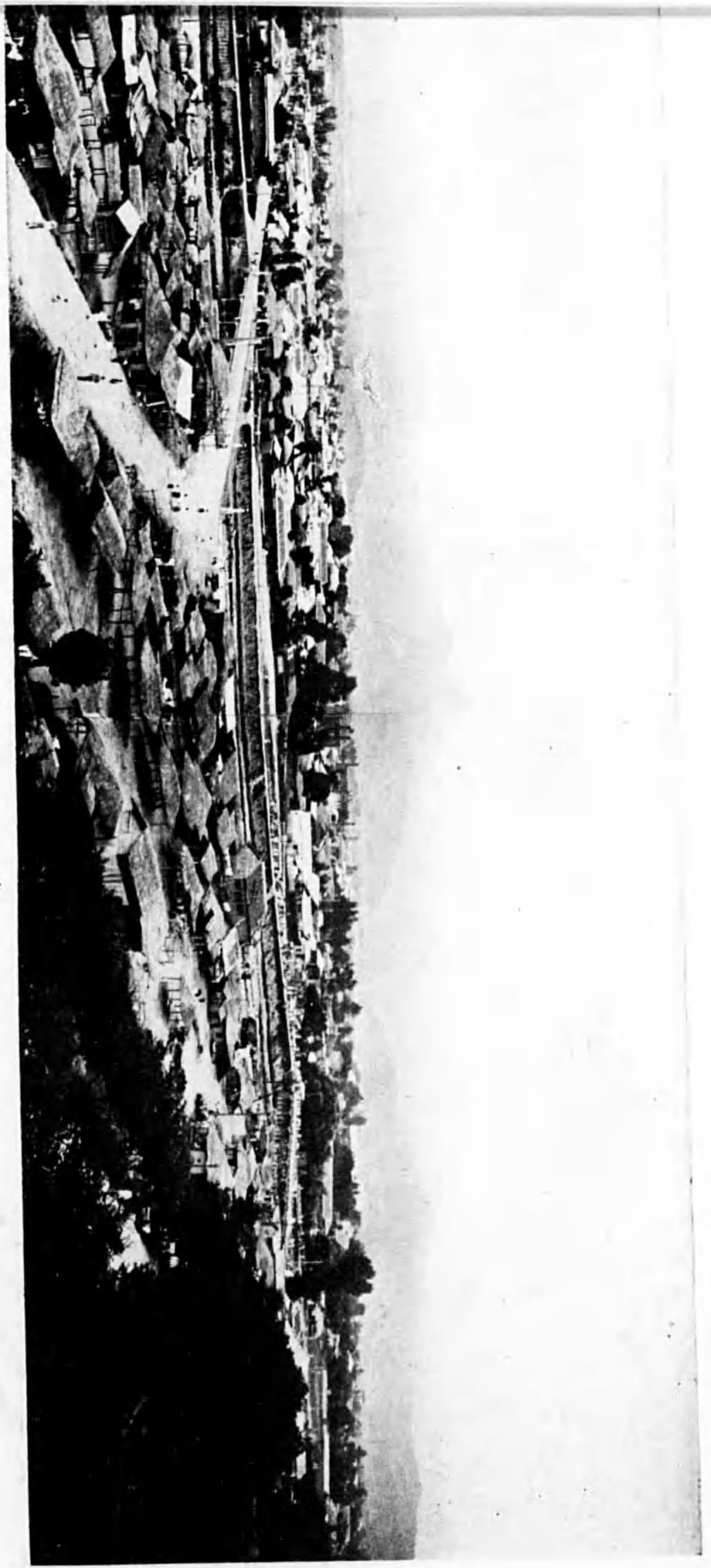


安 鎮



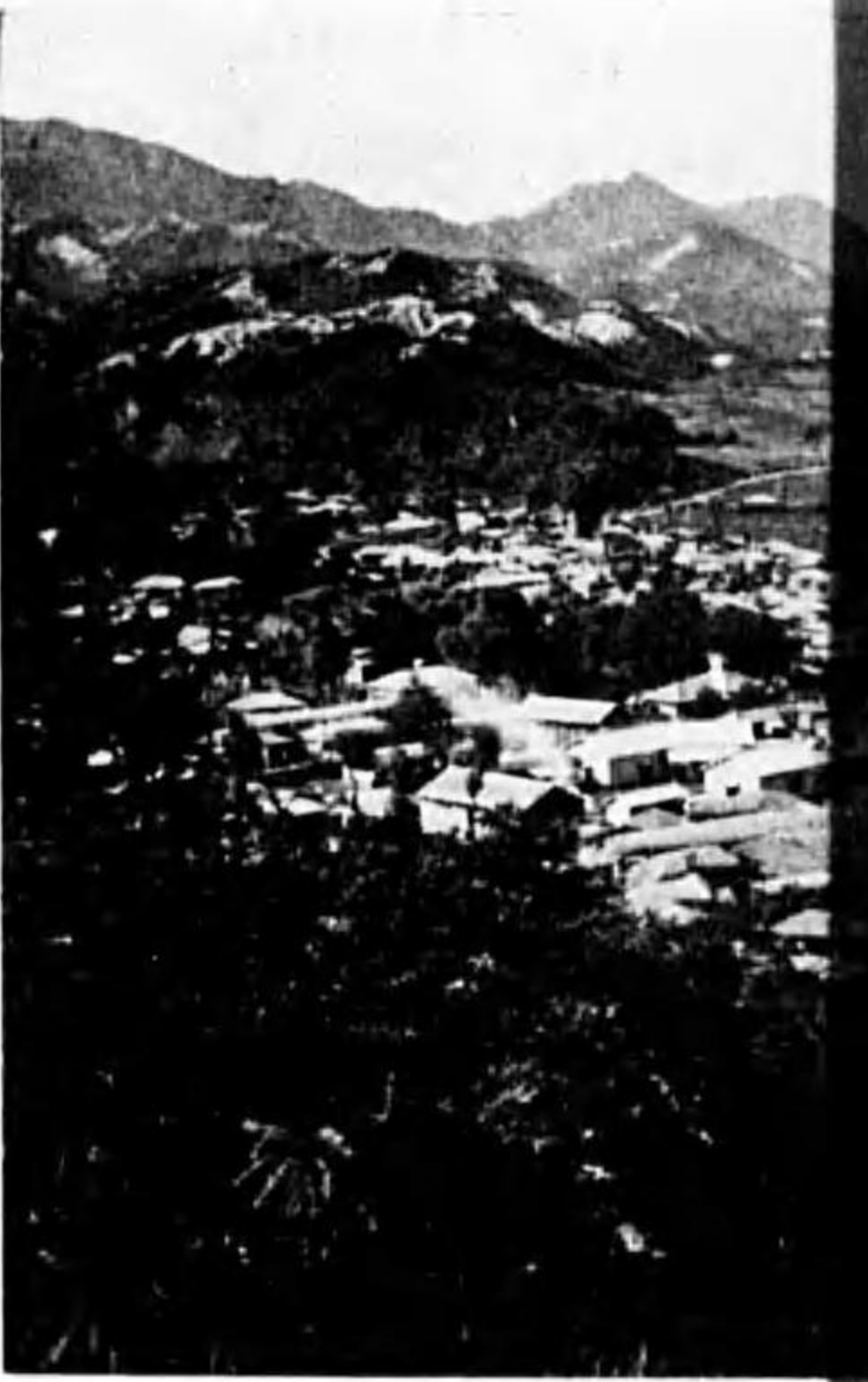
康 平





州

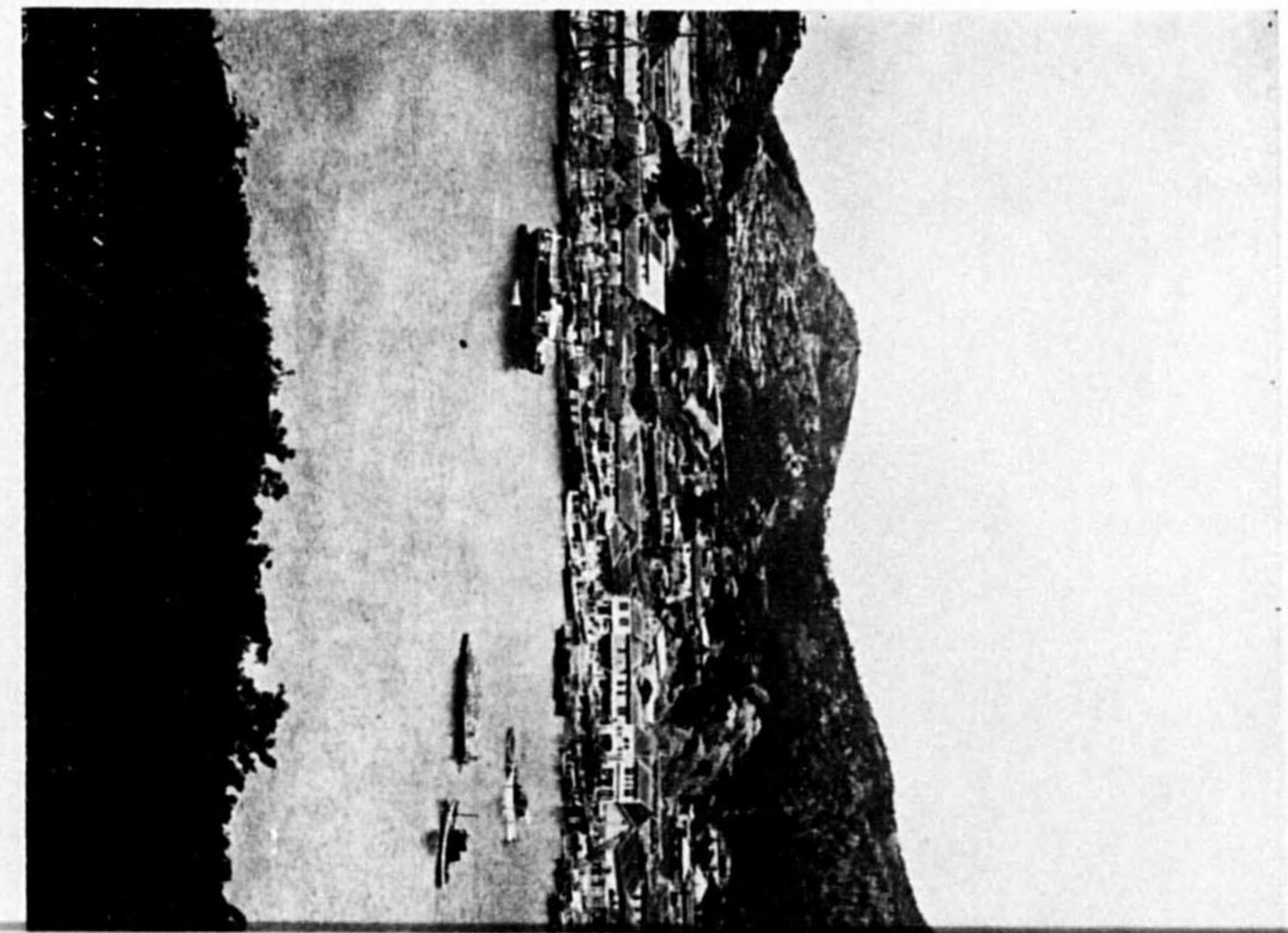
光

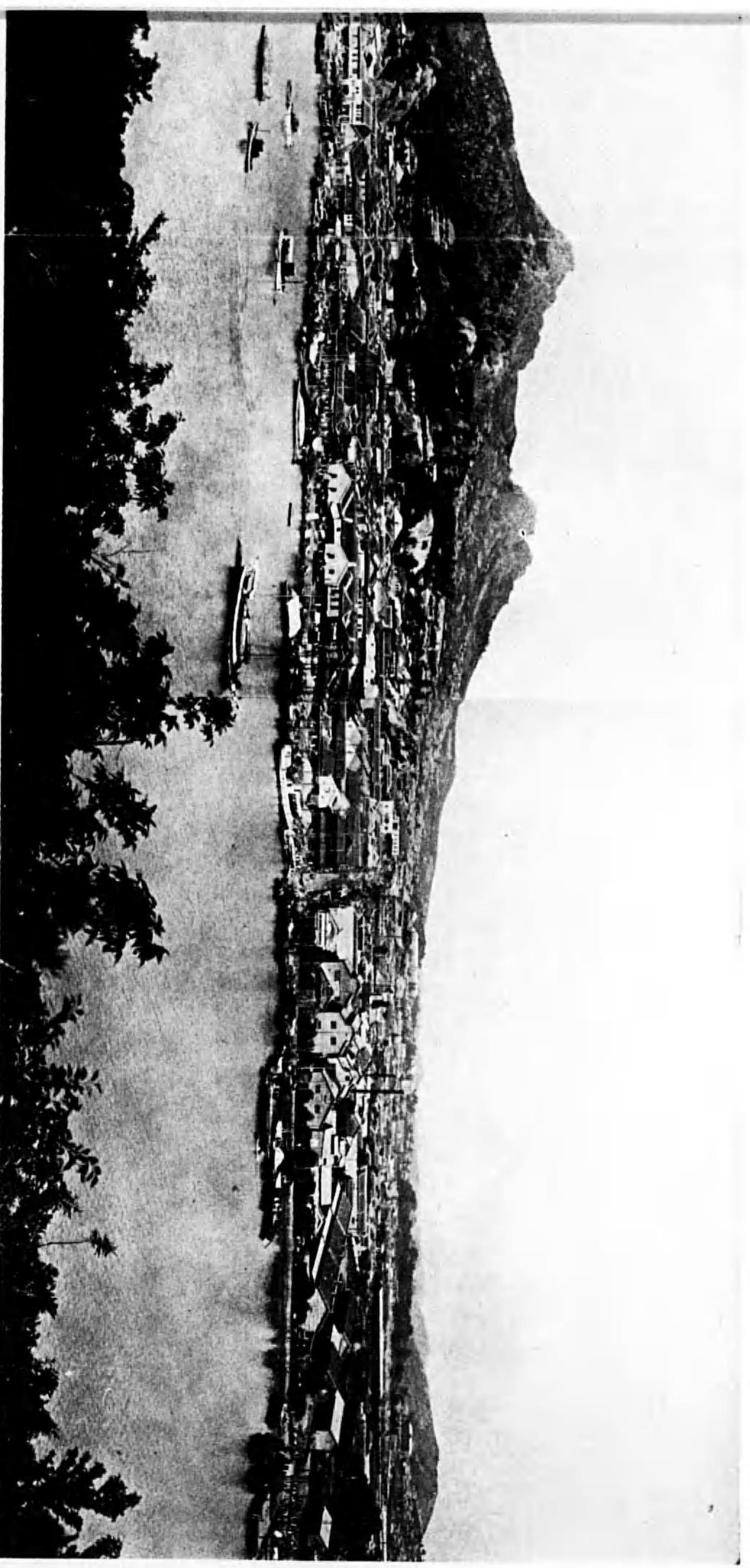


安



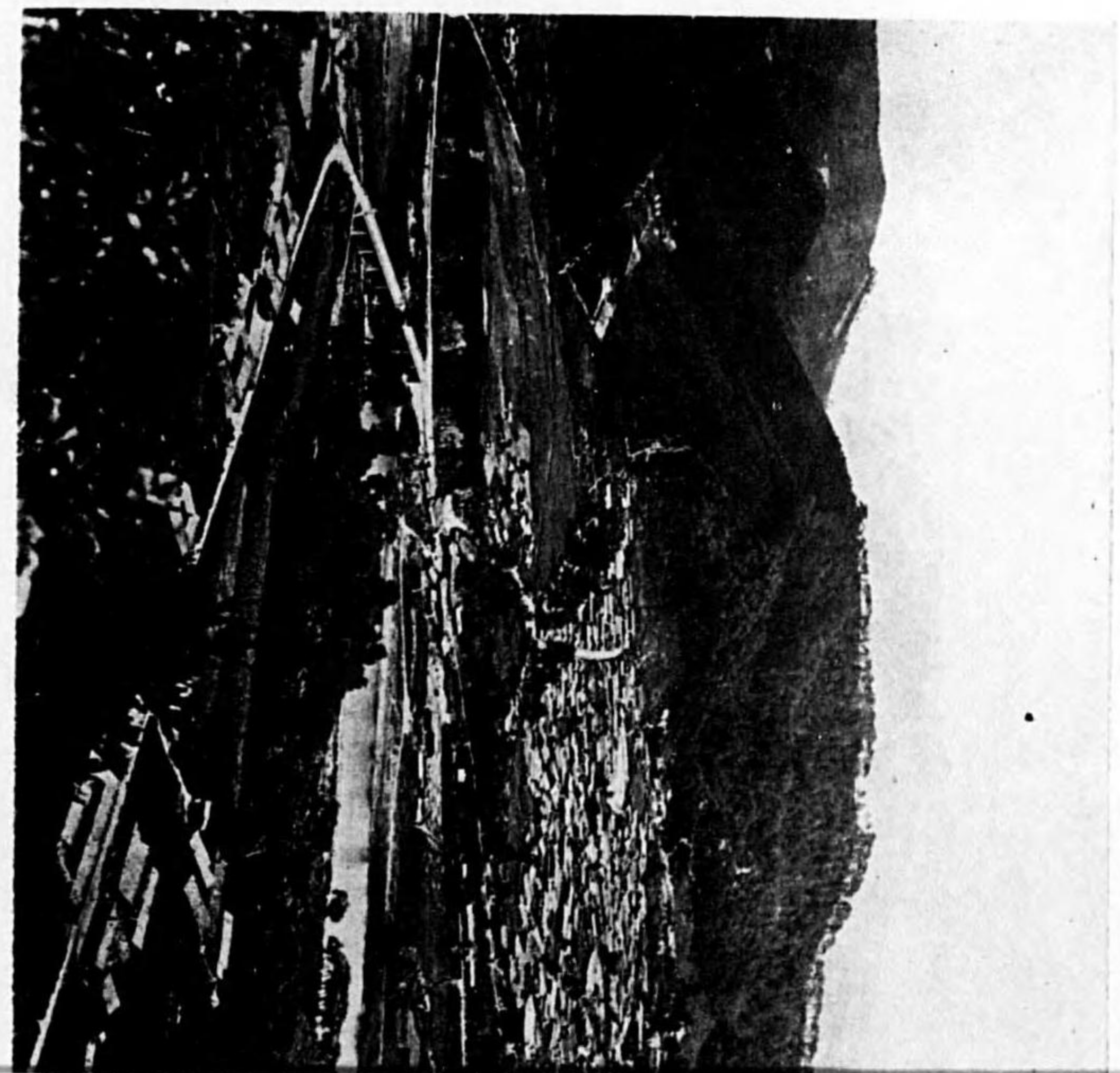
康





浦

木





界

江

10-15

「朝鮮の聚落」前篇 正誤表

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
八二	一一	por	por	一五八	六	匣+ 器所	匣+ 器所
八二	一二	por	por	一六八	一〇	慈器所	慈器所
八三	一〇	ho-k'air	cho-k'air	一七一	八	sup' (は)	sup' (は)
八五	一一	洞	洞	一九六	五	Kuehi	Kuehi
八六	一一	買且忽	買且忽	二〇〇	八	上中	上中
九〇	二〇	gam	gam 同	二〇〇	二	二〇五	二〇五
一〇一	二七	藁島	藁島	二二七	一三	賣買高	賣買高
一一〇	二	元塘	元塘	二二七	一四	畜類	畜類
一一一	三	あ	あ	二三五	三	部聚	部聚
一一一	三	あ	あ	二四五	六	觀あがる	觀あがる
一一一	四	説の考)で	説の考)であ	四一四	一八	新興里	新興里
一一三	六	p'i-moro	p'i-moro	四一八	三	三水郡	三水郡
一一三	九	mori	mori	四九六	二	開發に依	開發に依
一二四	一五	穰	穰	七二七	八	價格	價格
一二六	五	また	また	山村	終寫眞	鳥首標に於	鳥首標に於
一二八	八	舊南大州	舊南大川	七八七	四	ける火出	ける火出
一四一	九	lor	lor	八四六	二	中篇	中篇
一四四	七	sur	sur	八七八	九	鐘城	鐘城
一五五	一四	barder	border	都邑	寫眞	鏡城	鏡城

表①

昭和八年三月二十五日印刷
昭和八年三月三十日發行

朝鮮總督府

京城府蓬萊町三丁目六二
印刷所 朝鮮印刷株式會社

14.5
93

9.5.29

終